

平成27年度 全国学力・学習状況調査

長野市の結果分析と
学力向上・授業改善の糸口

平成27年11月

長野市教育委員会

目 次

I	しなのきプラン29	1
1	学力の定義	
2	目 標	
3	推進計画と重点	
II	調査の実施状況	3
1	調査目的	
2	調査内容	
3	調査対象	
4	実施期日	
III	平成27年度全国学力・学習状況調査結果概要	4
1	教科に関する調査の概要	
2	質問紙調査の概要	
IV	学力向上・授業改善の糸口	6
1	A・B学力について	
(1)	小学校国語 A問題	
(2)	小学校国語 B問題	
(3)	小学校算数 A問題	
(4)	小学校算数 B問題	
(5)	小学校理科	
(6)	中学校国語 A問題	
(7)	中学校国語 B問題	
(8)	中学校数学 A問題	
(9)	中学校数学 B問題	
(10)	中学校理科	
2	C学力について(長野市の大切にしている資質・能力の分析)	
3	家庭の7つの取組と学力の関係	
V	学力向上に効果을上げている学校の取組	27
VI	しなのきプラン29の重点について	36
1	児童生徒の学びを繋ぐ「幼保小中高」の円滑な接続	
2	児童生徒の基本的な生活習慣の確立と家庭学習の改善	
3	教員の授業力向上と日常の授業改善	

I しなのきプラン29

グローバル社会、高度情報化社会、少子高齢化・人口減少社会の到来とともに、長野市でも、経済格差の拡大や核家族化、地域コミュニティの崩壊、子育ての孤立化、価値観の多様化等、教育を取り巻く環境は大きく変化してきています。

長野市で生まれ、育ち、学び、成長し続ける子どもたちに、価値ある体験や学習を通じて、激動の時代を生き抜くための確かな「生きる力」を育むことが、いっそう重要な時代になって参りました。そのため、子どもの育ちや学びの連続性に着目し、「グローバルな視野を持って、地域に根差し、未来の地域社会づくりに参画・貢献できる力」を、一貫した教育の体系性、系統性の中で育てていく必要があります。

あわせて、子どもの乳幼児期、学童期、青年期のそれぞれに関わる大人たちが、社会への出口である18歳の、目指すべき姿を共有し、責任を果たしていくことが大切です。

また、学童期における「生きる力」は、知・徳・体を総合的に関連付けて、全ての教科や領域等を通して、子どもたちに身につけさせていくべきものであると考えます。

そのため、市教育委員会では、家庭、地域、学校が、子どもの「知・徳・体」をバランスよく伸ばし、キャリア発達を促しながら、子どもたちが成長していくための支援を行います。

そして、長野市教育大綱を基盤に、自立した18歳を目指し、それまでに、グローバルな視野を持ちながら、ローカルに逞しく生きる力を身につけ、自らの進路を切り拓く力を高めていくために、子どもたちの学力を保障していきます。

そこで、学力を、次の三つに分類し、いわゆるテストで測れるA学力やB学力だけでなく、C学力も数値で測ることができるようにしました。長野市が大切にしたい主な資質・能力（C学力）は、以下の4つの力（未来力、自律力、絆力、実践力）であり、キャリア教育の基礎的・汎用的能力と重なる力と考えました。

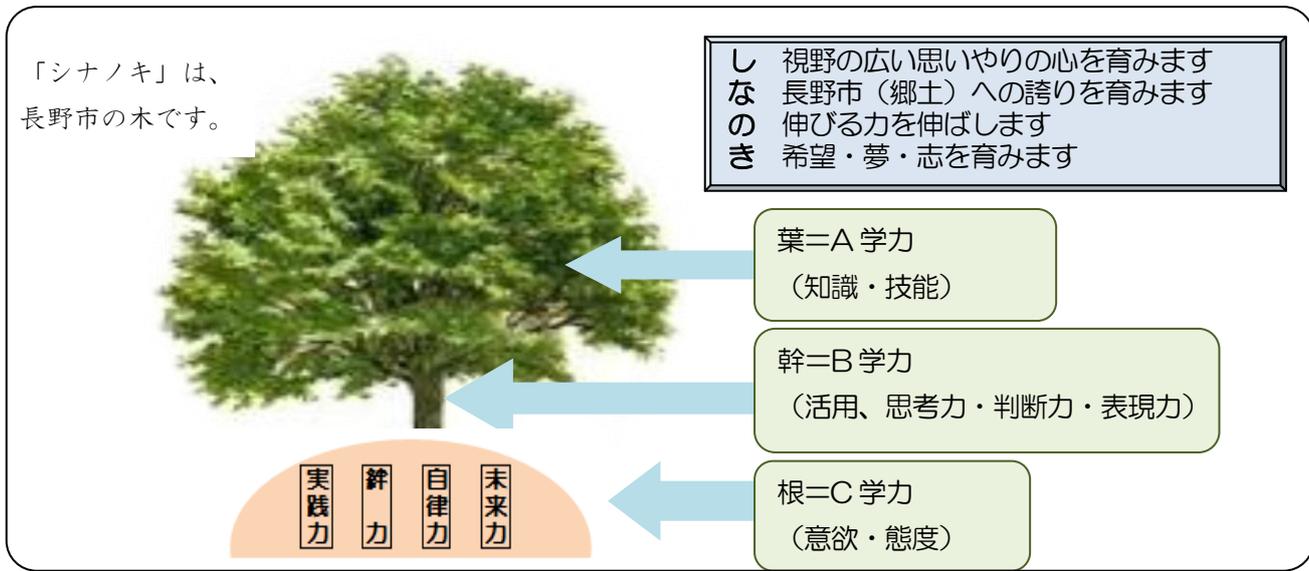
1 学力の定義

	A 学力	B 学力	C 学力 【長野市が大切にしたい資質・能力】
要素	知識・技能	活用 思考力・判断力・表現力	意欲・態度
測定 方法	○全国学力・学習状況調査のA 問題 ○標準学力検査（NRT）	○全国学力・学習状況調査のB 問題 ○活用問題調査	○全国学力・学習状況調査の質 問紙調査

C 学力【長野市が大切にしたい主な資質・能力】		キャリア教育でつける力
未来力	将来の夢や目標と見通しを持ち、努力を継続できる力	キャリアプランニング能力
自律力	規範意識を持ち、自己をコントロールする力	自己理解・自己管理能力
絆力	他者を尊重し、積極的に人間関係を築こうとする力	人間関係形成・社会形成能力
実践力	獲得した知識・技能及び思考力・判断力・表現力を駆使して、粘り強く課題に対応し、行動する力	課題対応能力

市教育委員会が考える学力は、長野市の木である「シナノキ」をイメージしています。子どもたちを若木と捉え、C学力を木の根、B学力を木の幹、A学力を木の葉に象徴させています。

市教育委員会では、若木の成長に対して、適切な環境を提供し、根、幹、葉のバランスがよく、逞しい大木に、時間をかけて育てていきたいと考えます。



2 目 標

勃	全国学力・学習状況調査における課題 ⇒ 目 標
A	(中学生) 正答率40%以下の生徒の割合 ⇒ 全国比100を下回る
B	(中学生) 「活用力」(B問題) ⇒ 全国比100を上回る
C	(小中学生) 「実践力」 ⇒ 全国比100を上回る

平成29年度の検証に向け、上記のような目標を設定しました。これは、全国を100とした場合の本市の数値です。数値は、子ども一人一人算出するのではなく、集団(学校、市全体)に適用するものと考えます。これまで、感覚的にとらえていたC学力の「意欲・態度」の部分について、客観的な数値で「見える」ようにすることで、市教育委員会や学校の取組の検証改善に活かすことができると考えます。

「しなのきプラン29」は、平成29年度までの3ヶ年の取組であり、その後、3年毎にプランの見直しを行います。平成27年度に小学校へ入学した子どもたちが、平成35年度の中学校卒業時には、大きな成果を得ていることを目指すものであり、学力向上を図るための29のプランについて重点的に行うものです。

3 推進計画と重点

年度	27	28	29	30	31	32	33	34	35
教育振興基本計画 (5カ年計画)	⇒ 第1期		第2期				第3期 ⇒		
しなのきプラン (3ヶ年×3計画)	プラン29(第1期)		プラン32(第2期)			プラン35(第3期)			
長野市モデル	開発		実証						

若木を大木に育てるために、以下の3つを重点として、29のプランを実施し、学力向上を図ります。

視点	しなのきプラン29の重点
2	I 児童生徒の学びを繋ぐ「幼保小中高」の円滑な接続＝「長野市モデル」
3・4	II 児童生徒の基本的な生活習慣の確立と家庭学習の改善
1・5	III 教員の授業力向上と日常の授業改善

Ⅱ 調査の実施状況

1 調査目的

長野市では、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証して、その改善を図るとともに、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する目的で、本調査に参加しました。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

小学校 国語 A・算数 A（主に「知識」に関する問題）

国語 B・算数 B（主に「活用」に関する問題）

理科

中学校 国語 A・数学 A（主に「知識」に関する問題）

国語 B・数学 B（主に「活用」に関する問題）

理科

(2) 児童生徒質問紙調査

(3) 学校に対する質問紙調査

3 調査対象

小学校6年生 54校 約 3,300 人（行事等で実施できなかった小学校 1 校を除く）

中学校3年生 24校 約 3,178 人

※ 調査人数は、国語 A の実施人数を記載しています。

4 実施期日

平成27年4月21日 火曜日



しなのきプラン 29

Ⅲ 平成27年度全国学力・学習状況調査結果概要

1 教科に関する調査の概要（A・B学力）

小学生

正答率（%）と全国比

中学生

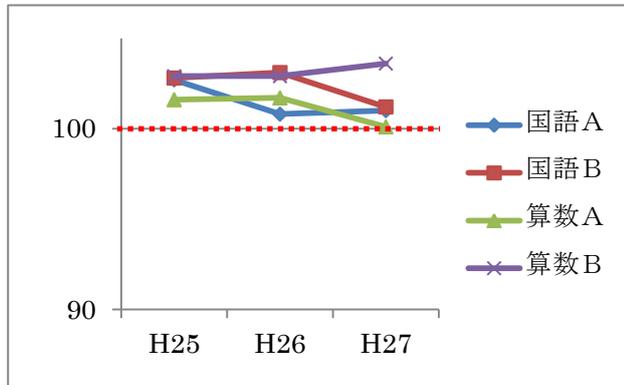
	長野市	長野県	全国	長野市 (全国比)
国語A	70.7	70.4	70.0	101.0
国語B	66.2	66.4	65.4	101.2
算数A	75.3	75.0	75.2	100.1
算数B	46.6	45.4	45.0	103.6
理科	62.6	61.3	60.8	103.0

	長野市	長野県	全国	長野市 (全国比)
国語A	75.2	76.2	75.8	99.2
国語B	64.1	65.0	65.8	97.4
数学A	62.6	63.5	64.4	97.2
数学B	39.8	40.6	41.6	95.7
理科	51.9	52.8	53.0	97.9

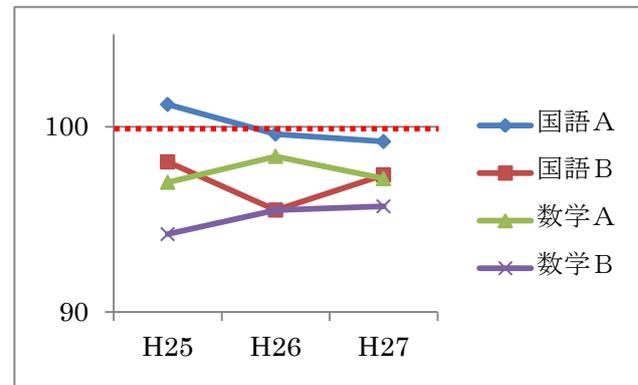
小学生(全国=100)

全国比の推移（国語・算数・数学）

中学生(全国=100)



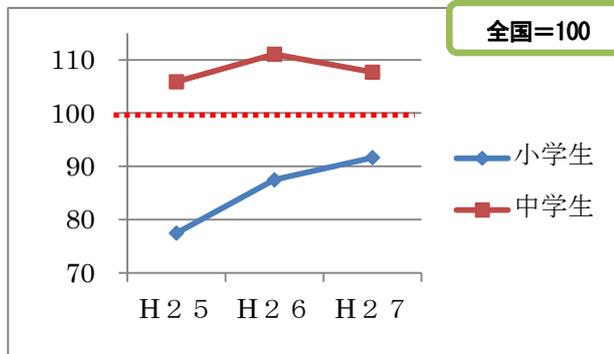
全調査で全国平均を上回り、おおむね良好な結果が得られました。
国語A、算数Bで、回復傾向が見られます。



全調査で全国平均を下回りました。
国語B、数学Bで回復傾向が見られます。

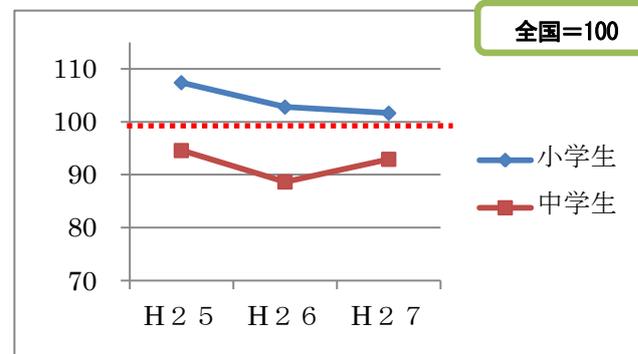
正答数の少ない児童生徒の割合と正答数の多い児童生徒の割合の推移

正答率40%以下の児童生徒の全国比



正答率40%以下の小学生の割合は、全国より少なく、中学生の割合は全国より多い状況です。
中学生の割合は昨年度より減少しています。

正答率80%以上の児童生徒の全国比



正答率80%以上の小学生の割合は、全国より多く、中学生の割合は、全国より少ない状況です。
中学生の割合は昨年度より増加しています。

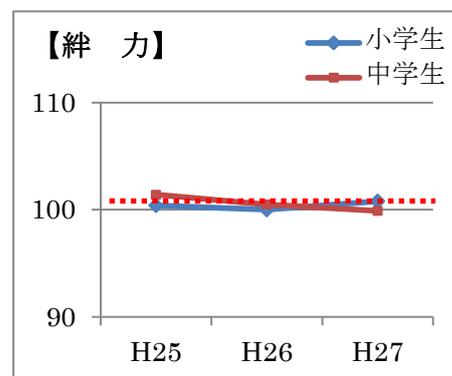
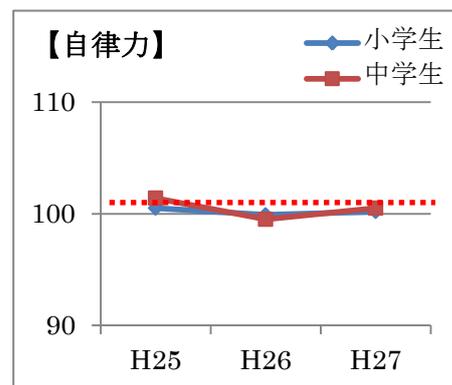
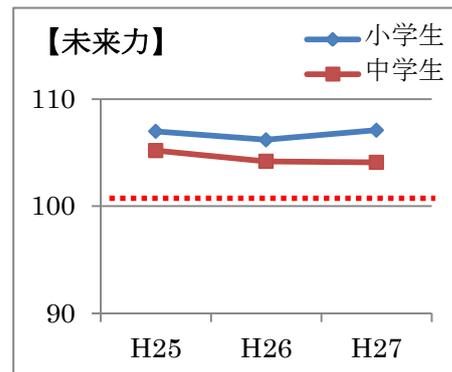
2 質問紙調査の概要 (C 学力)

上 段 : H27

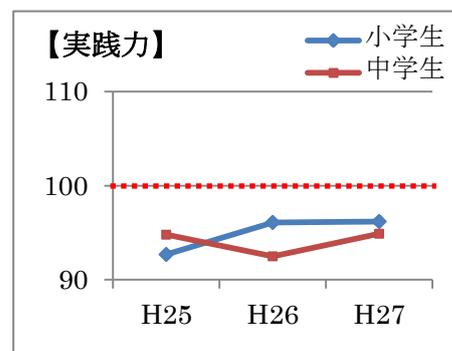
(下段) : H26

全国=100

【未来力】	質問項目	小学生	中学生
	将来の夢や目標を持っていますか。	98.5 (99.5)	98.2 (99.7)
	国語や算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役立つと思いますか。	99.4 (99.5)	100.1 (96.9)
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	101.0 (100.1)	99.5 (99.7)
	今住んでいる地域の行事に参加していますか。	129.4 (125.6)	118.8 (120.5)
	平均	107.1 (106.2)	104.2 (104.2)
【自律力】	質問項目	小学生	中学生
	学校のきまり(規則)を守っていますか。	99.3 (99.1)	100.5 (99.0)
	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	101.3 (101.7)	99.9 (100.0)
	家で、学校の宿題をしていますか。	99.8 (98.9)	101.1 (99.4)
	平均	100.1 (99.9)	100.5 (99.5)
【絆力】	質問項目	小学生	中学生
	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。	100.3 (101.9)	100.8 (101.2)
	学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。	101.2 (96.8)	98.5 (100.7)
	人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。	101.0 (101.2)	100.4 (99.6)
	平均	100.8 (100)	99.9 (100.5)
【実践力】	質問項目	小学生	中学生
	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができますか。	94.9 (95.5)	92.4 (88.1)
	「総合的な学習の時間」で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか。	99.5 (100.4)	96.2 (92.8)
	「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。	85.4 (85.9)	78.3 (70.3)
	学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。【難しいと思わない割合】	106.0 (102.6)	114.1 (118.3)
	学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができますか。	95.1 (96.4)	93.6 (92.7)
	平均	96.2 (96.1)	94.9 (92.5)



注) 絆力「友達に伝えたいことをうまく伝えることができますか。」の質問紙項目が変更になったため、3項目の平均値にしました。

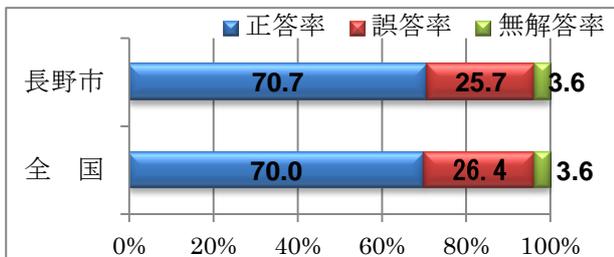


Ⅳ 学力向上・授業改善の糸口

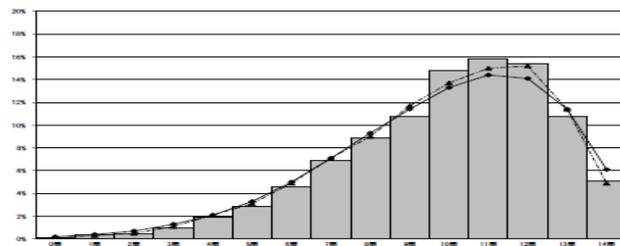
1 A・B学力について

(1) 小学校国語 A問題（知識に関する問題）

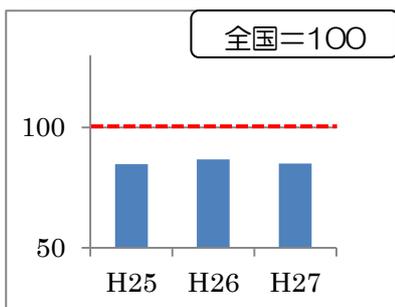
正答率比較



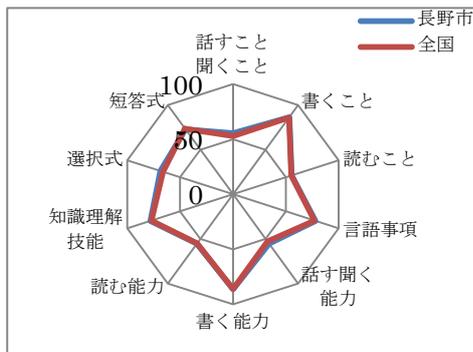
正答数分布



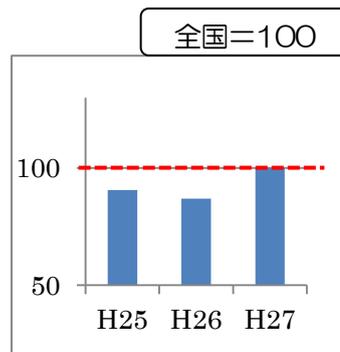
正答率40%以下の児童の割合



領域・観点・問題形式別



無解答の児童の割合



課題があった設問

(正答率 全国 19.8% 長野市 13.9%)

52 筆者は、自分の思いや考えを根拠付けるためにある言葉を引用しています。それは、どの言葉ですか。最も適切な言葉のはじめの五文字を書きぬきましょう。ただし、句点(。)や読点(、)、かぎ(「」『』)は字数に含みません。

【コラム】 四月二十三日は「子ども読書の日」。世界では「世界本の日」とも呼ばれている。本とその作者たちを敬うとともに、読書の楽しみを味わう日である。子供のころ、宮沢賢治の『セロ弾きのゴーシュ』に夢中になった。楽団の中で、一番へたなセロ弾きであるゴーシュが、動物たちとの出会いを通して成長していく様子に心がどった。ある作家の言葉に、「読書というものは、その時その時によって読みの味わいがちがう」というものがある。子供時代に読んだ本を大人になって読み返すと、また別の楽しみが味わえるものだ。先日『セロ弾きのゴーシュ』を再び読んだ。当時は気付かなかった人物の見事なえがき方やたくみな描写に、賢治のすばらしさを実感した。世界の人々が本について考える日。子供はもちろん、かつて子供であった大人も童心に戻って本を楽しむ。そんなひとときもよいものだ。

正答 「読書という」

課題

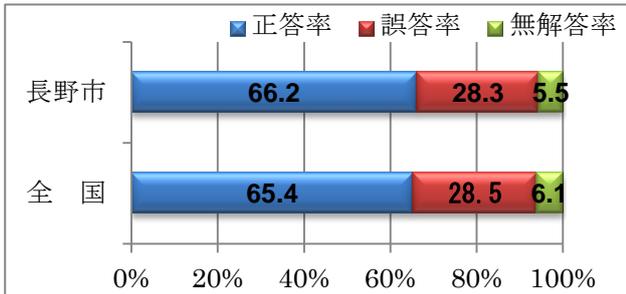
新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える。

授業改善の糸口

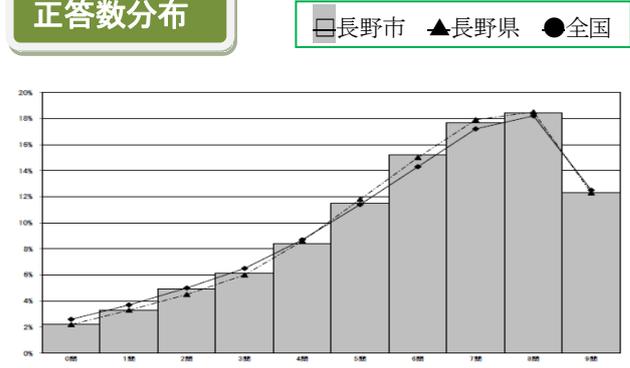
実際の新聞の中からコラムを集めて多読し、どのような話題が取り上げられているのか、それに対して筆者がどのような考えをもっているのかを比べ読みするような活動を位置付け、その際に引用を含めた様々な表現の工夫に着目し、自分でもその工夫を取り入れて文章を書くようにする。

(2) 小学校国語 B問題 (活用に関する問題)

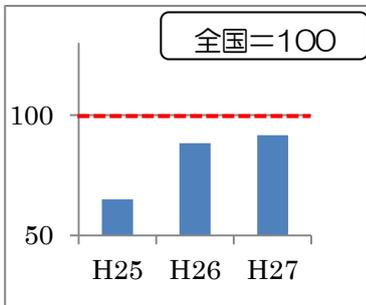
正答率比較



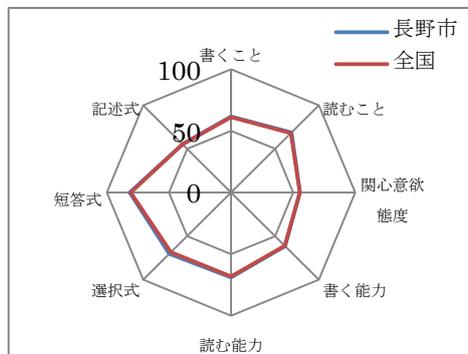
正答数分布



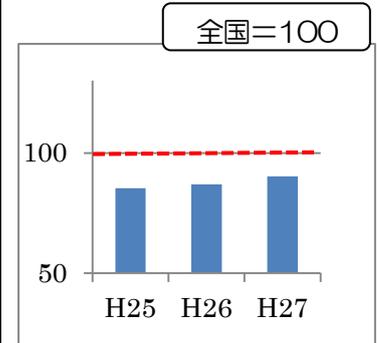
正答率40%以下の児童の割合



領域・観点・問題形式別



無解答の児童の割合



課題があった設問

(正答率 全国 41.6% 長野市 39.8%)

23 森山さんのグループでは、「希望者が一人の場合には、その人がその楽器に決まる」ということを確認しています。グループの五人は、楽器の分担をどのように決めていくことになりますか。【楽器の分担図】をもとにし、次の条件に合わせて説明しましょう。

〈条件〉・「リコーダー①」「小だいこ」「木きん」という三つの言葉を使って書くこと。

- ・「木きん」の決め方については、【文章】の中で説明している、決めるときに大切なことを取り上げて書くこと。
 - ・書き出しの言葉に続けて、80字以上、100字以内で書くこと。なお、「しかし」から始まる書き出しの言葉は字数にふくむ。
- 正答 (略)

課題

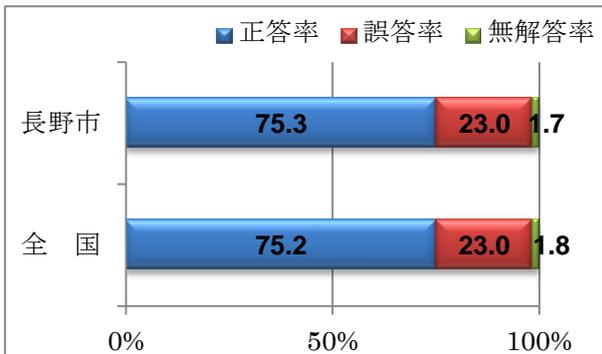
文章と図とを関係付けて、自分の考えを書く。

授業改善の糸口

- 1) 身のまわりから、図表やグラフ、絵、写真などが用いられている文章や新聞記事を探し、それらの資料が用いられた意図や効果について考える活動を位置付ける。
- 2) 図表やグラフなどが添えられた文章を提示し、それらに関連付けて読んだり、自分の考えを書いたりする活動を位置付ける。

(3) 小学校算数 A問題 (知識に関する問題)

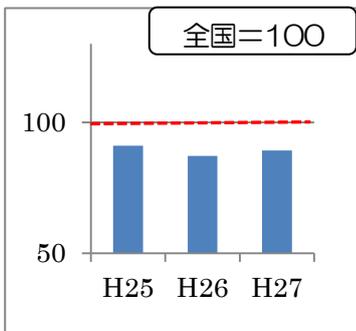
正答率比較



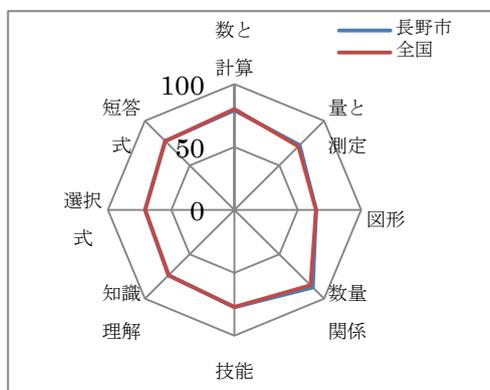
正答数分布



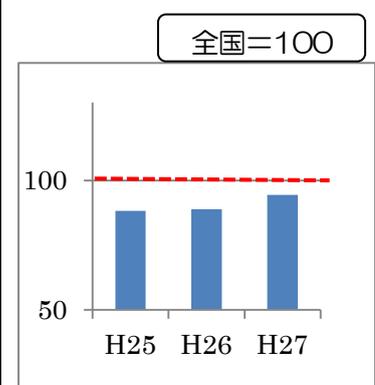
正答率40%以下の児童の割合



領域・観点・問題形式別



無解答の児童の割合



課題があった設問

(正答率 全国 69.5% 長野市 66.5%)

② 次の計算をしましょう。
(2) $6.79-0.8$

正答 5.99 最も多い誤答 6.71または67.1または671 (16.1%)

課題

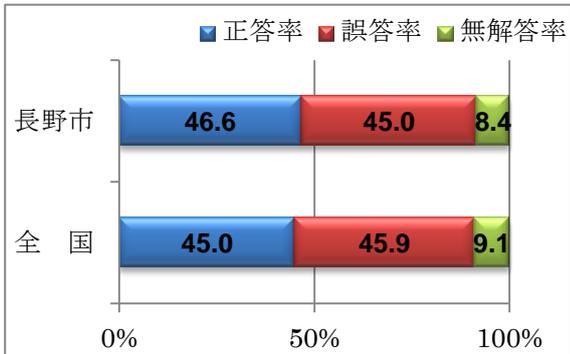
末尾の位のそろっていない小数の計算をする。

授業改善の糸口

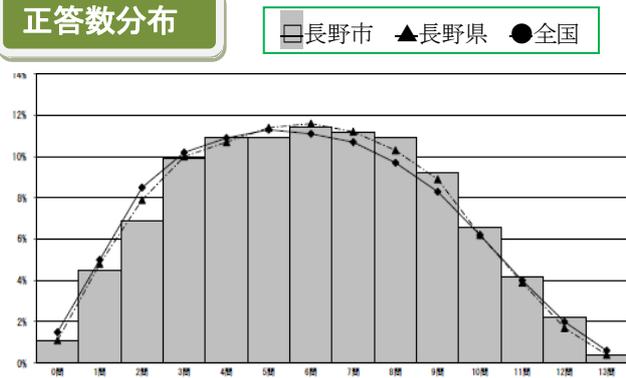
- 1) 計算前に、結果の見積もりを行い、計算の結果と見積もりの結果が大きく異なっていないことを確認する場を設けて、習慣化できるような活動を位置付ける。
- 2) 末尾をそろえて計算した場合と、小数点の位置をそろえて計算した場合とを比較したり、正しい計算の仕方を説明したりするような活動を位置付ける。

(4) 小学校算数 B問題 (活用に関する問題)

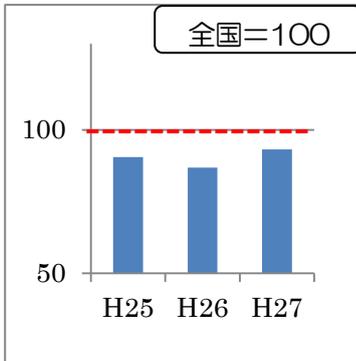
正答率比較



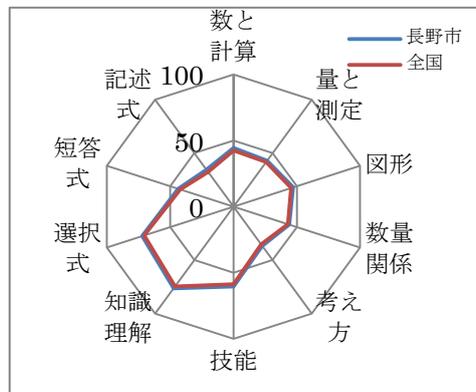
正答数分布



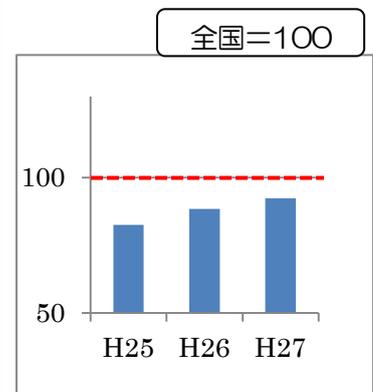
正答率40%以下の児童の割合



領域・観点・問題形式別



無解答の児童の割合



課題があった設問

(正答率 全国 13.1% 長野市 11.5%)

② (2) せんざいを買います。家で使っているせんざいが、20%増量して売られていました。

増量後のせんざいの量は480mLです。

増量前のせんざいの量は何mLですか。求める式と答えを書きましょう。

正答 式 $480 \div 1.2$ または $480 \div 120 \times 100$
 または $\square \times 1.2 = 480$ 等

答え 400mL

最も多い誤答 $480 \div 0.2$ または $480 \div 20$ または 480×0.2 等 (34.6%)
 480×0.8 (32.6%)



課題

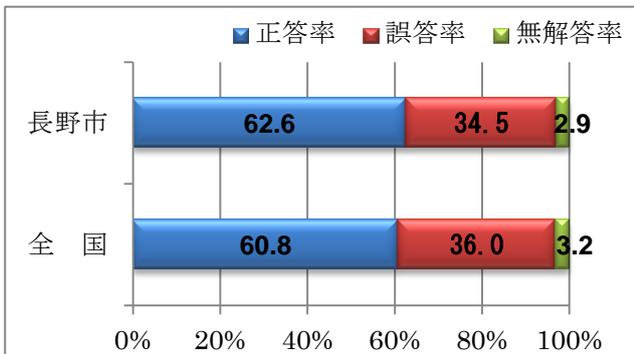
示された情報により、比較量と割合から基準量を求める。

授業改善の糸口

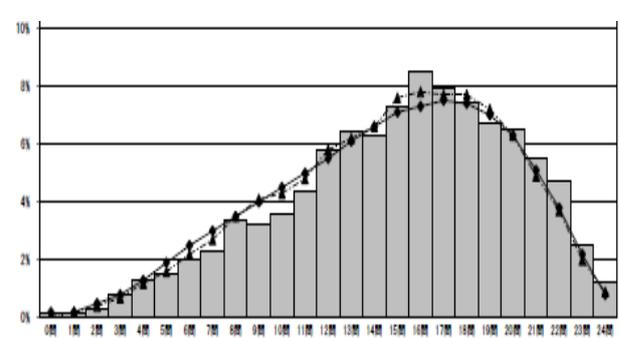
- 1) 日頃から、児童自らが関係図、関係式、数直線等をかいて、関係を整理する活動を位置付ける。
- 2) 示された数値が複雑な場合(小数、分数等)、単純化して考えればよいことに児童が気づくことができるような活動を位置付ける。

(5) 小学校理科

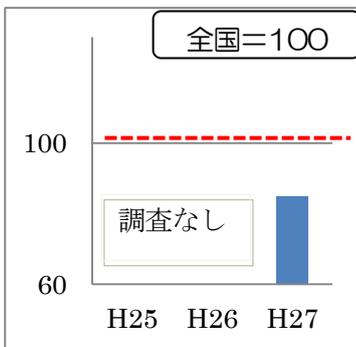
正答率比較



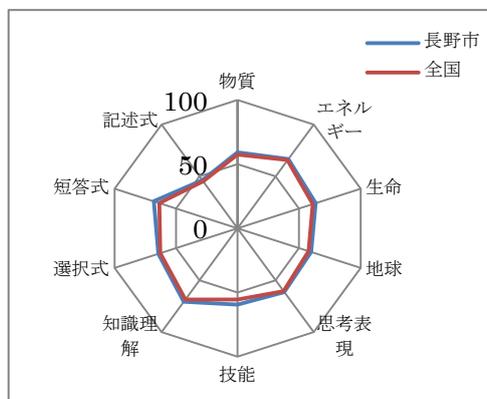
正答数分布



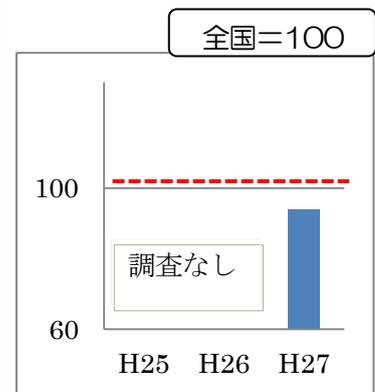
正答率40%以下の児童の割合



領域・観点・問題形式別



無解答の児童の割合



課題があった設問

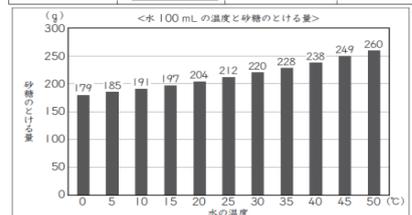
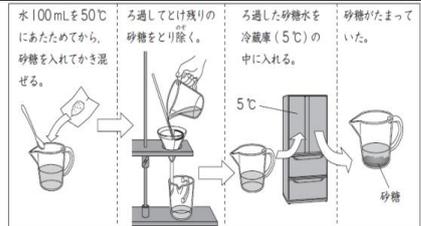
(正答率 全国 28.9% 長野市 27.3%)

③ (6) としおさんは、20℃の水 100mL を 50℃にあたためてから、砂糖を入れてかき混ぜました。すると、とけ残りが出たので、ろ過してから砂糖水を冷蔵庫で保管しました。次の日、冷蔵庫からとり出すと、底に砂糖がたまっていました。…グラフから考えると、砂糖水を5℃の冷蔵庫から取り出したとき、とけきれなくなってたまっていた砂糖は約何gだと考えられますか。

下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを書きましょう。

1 約19g 2 約75g 3 約185g 4 約260g

正答 2 わけ(例) 5℃まで冷やすと185gまでしかとけず、とけきれなくなって出てくるのは、50℃と5℃のときのとける量の差だから。



課題

析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述する。

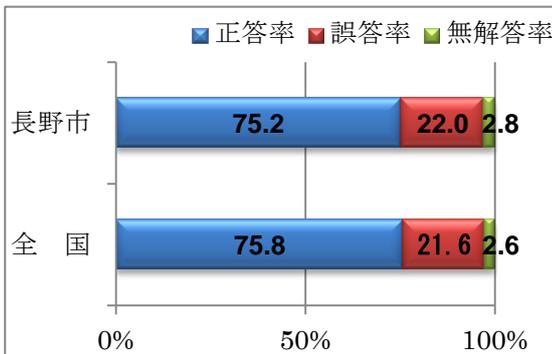
授業改善の糸口

1) 実験の結果を表やグラフに整理し、モデル化やイメージ化し、自分なりの解釈を表現する場を位置付ける。

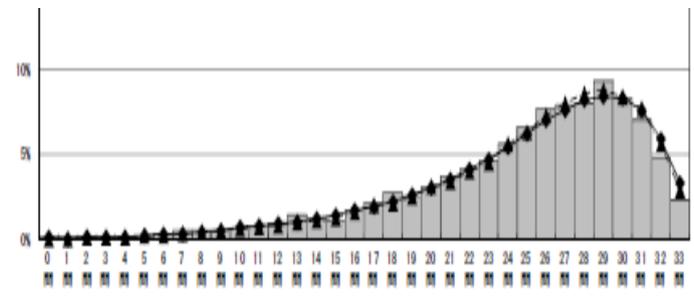
2) 結果から言えることを科学的な言葉や概念を使ってまとめる活動を位置付ける。

(6) 中学校国語 A問題 (知識に関する問題)

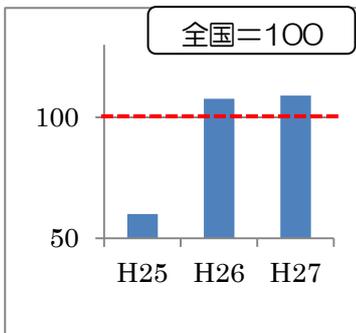
正答率比較



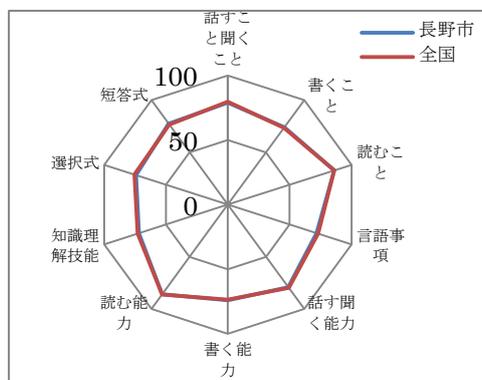
正答数分布



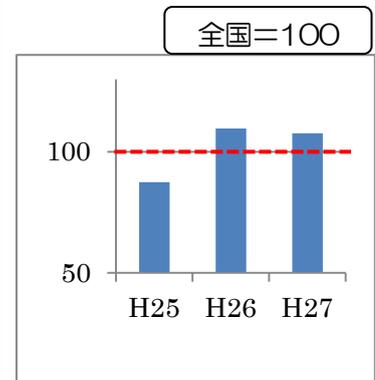
正答率40%以下の生徒の割合



領域・観点・問題形式別



無解答の生徒の割合



課題があった設問

(正答率 全国 33.7% 長野市 26.3%)

9 四 ②次の文章の①と②に当てはまるものとして最も適切なものを、あとの1から4までの中からそれぞれ一つ選びなさい。

私は伝えたい内容が明確になるように、次のアの文をイの文に変えました。イの文の方が、器の色が特に目を引き付けたことが伝わります。これは、「青い」という(①)を、「青さ」という(②)に変えて、主語にしているためです。

ア 大きな青い器が私の目を引き付けた。 → イ 大きな器の青さが私の目を引き付けた。

1 名詞 2 動詞 3 形容詞 4 形容動詞

②の正答 1 最も多い誤答 4 (38.5%)

課題

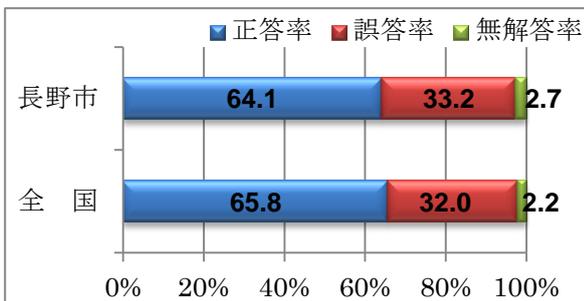
単語を品詞に類別する。

授業改善の糸口

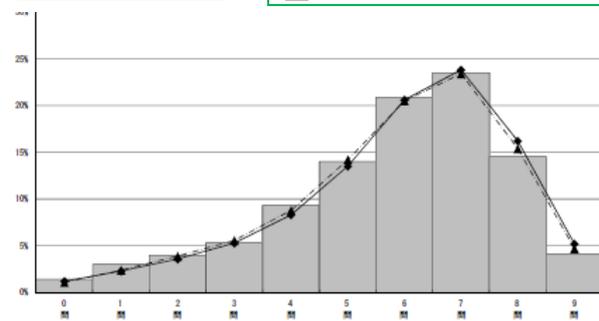
- 1) 伝えたい内容を明確にするためには、どのような語順にすればよいのか検討させるとともに、それぞれの単語が文の中でどのような働きをしているのかを考えさせる活動を位置付ける。
- 2) 「生活記録」など日常的に書く文章の中で語順を意識したり、単語自体を伝えたい内容に合わせて変化・活用させたりして書かせる活動を位置付ける。
- 3) 各領域の学習の中で単語の類別について意図的に取り上げて、知識の定着を図る活動を位置付ける。

(7) 中学校国語 B問題 (活用に関する問題)

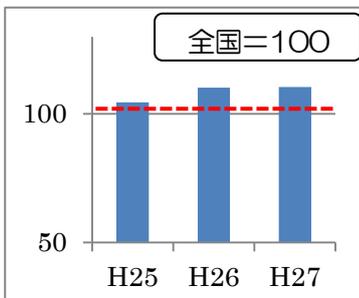
正答率比較



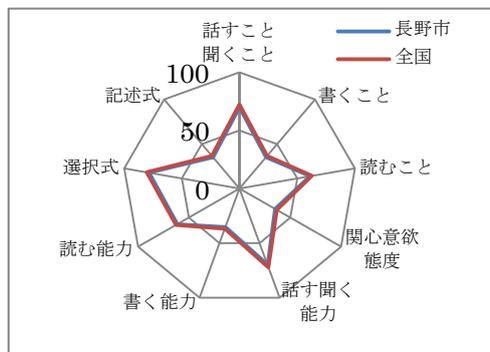
正答数分布



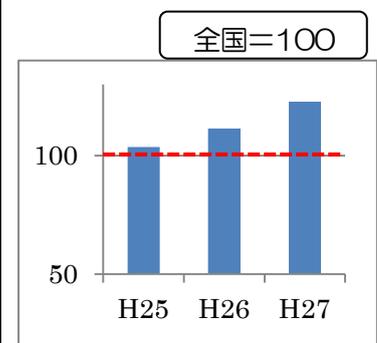
正答率40%以下の生徒の割合



領域・観点・問題形式別



無解答の生徒の割合



課題があった設問

(正答率 全国 23.0% 長野市 21.1%)

23 あなたは、2020年の日本は、どのような社会になっていると予想しますか。また、その社会にどのように関わっていききたいと思いますか。あなたの考えを、次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 資料【A ウェブページの文章】、【B 日本の人口推移を表したグラフ】、【C 雑誌の記事の一部】の中からいずれか二つを選び（どの資料を選んでもかまいません。）、それらの内容を取り上げて具体的に書くこと。

条件2 「2020年の日本は、」に続けて、80字以上、120字以内で書くこと。

正答の条件 ①【資料ABC】の中から二つを選んで、資料の内容を適切に取り上げている。②2020年の日本がどのような社会になっているかを予想して具体的に書いている。③社会にどのように関わっていききたいかを具体的に書いている。

④「2020年の日本は、」に続けて、80字以上、120字以内で書いている。

最も多い誤答 正答の条件③を満たしていない。(43%)

課題

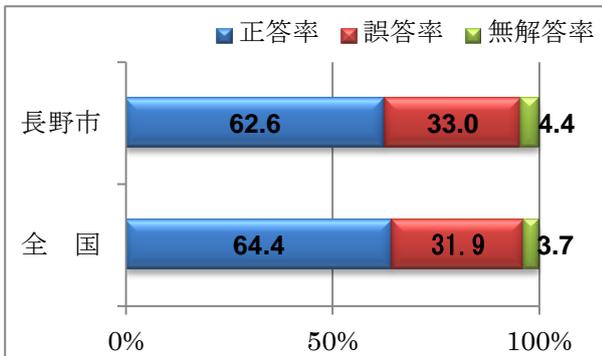
複数の資料から多様な情報に触れ、問題意識をもったり、新たな発想を得たりしながら、自分の考えを具体的に書く。

授業改善の糸口

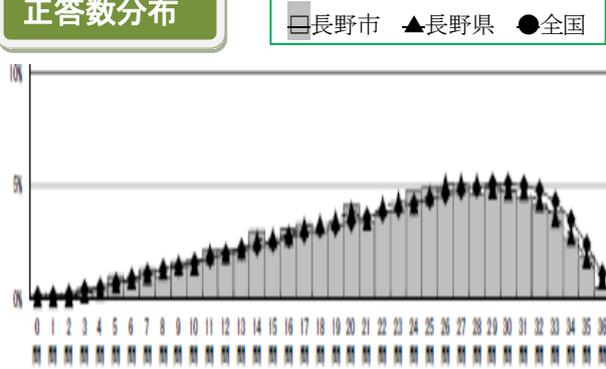
- 1) 授業の始めに、本の一部や資料、新聞記事を読み、書かれていることを正確に理解するようなドリル活動を位置付ける。
- 2) 資料から得た情報を自分と結びつけ、感じたことや考えたことを他の人に話したり、文章に書いたりして、新たな気づきや問題意識を明らかにする活動を位置付ける。
- 3) 自分の考えを深めたり、広げたりするために、学校図書館やインターネットなどを利用し、主体的に情報を探す活動を位置付ける。

(8) 中学校数学 A問題 (知識に関する問題)

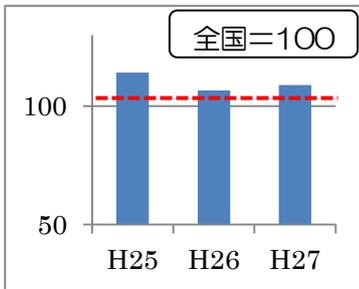
正答率比較



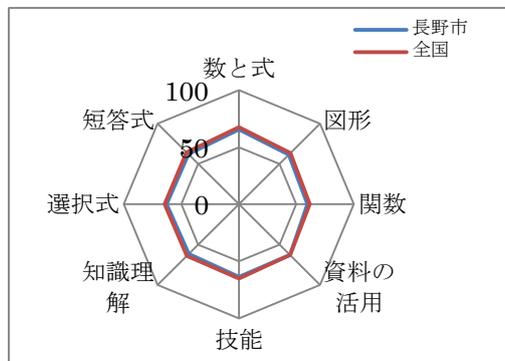
正答数分布



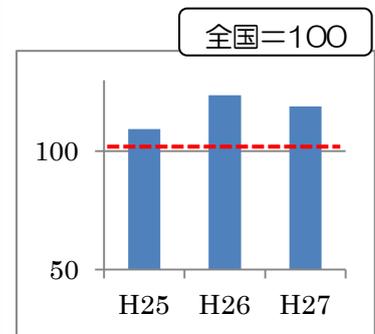
正答率40%以下の生徒の割合



領域・観点・問題形式別



無解答の生徒の割合



課題があった設問

(正答率 全国 69.7% 長野市 65.1%)

6 (2) 図1のように四角形の外側に点 P をとり、図2の五角形をつくると、頂点 P における内角は 80° になりました。

図2の五角形の内角の和は、図1の四角形の内角の和と比べてどうなりますか。下のアからオまでのの中から正しいものを1つ選びなさい。

- ア 図2の五角形の内角の和は、図1の四角形の内角の和より 80° 大きくなる。
- イ 図2の五角形の内角の和は、図1の四角形の内角の和より 180° 大きくなる。
- ウ 図2の五角形の内角の和は、図1の四角形の内角の和より 360° 大きくなる。
- エ 図2の五角形の内角の和は、図1の四角形の内角の和と変わらない。
- オ 図2の五角形の内角の和は、図1の四角形の内角の和と比べてどうなるかは、問題の条件だけでは決まらない。



正答 イ 最も多い誤答 ア (11.9%)

課題

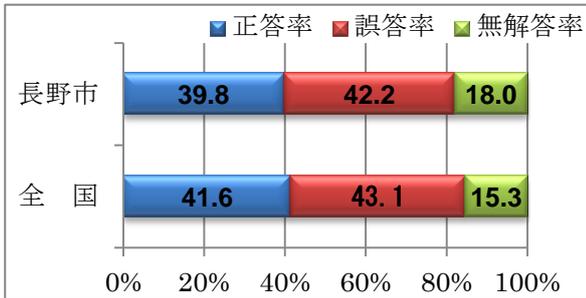
多角形の内角の和の性質を理解する。

授業改善の糸口

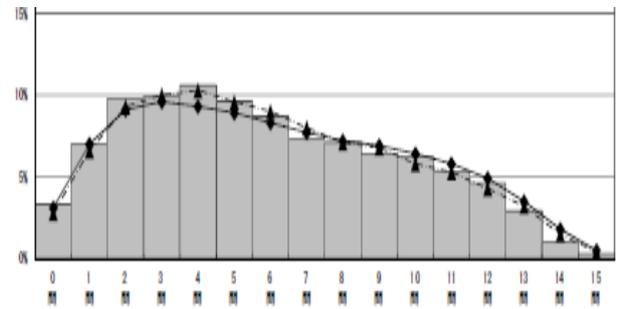
- 1) 多角形の頂点や辺の数が1つ増えると、内角の和が 180° 増える理由を説明する場を設定する。
- 2) 多角形と三角形の図を用いて、内角の和が、三角形の内角の和の分だけ増えることを視覚的に提示する。

(9) 中学校数学 B問題 (活用に関する問題)

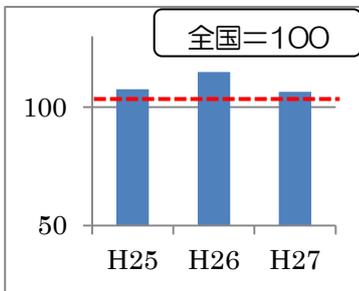
正答率比較



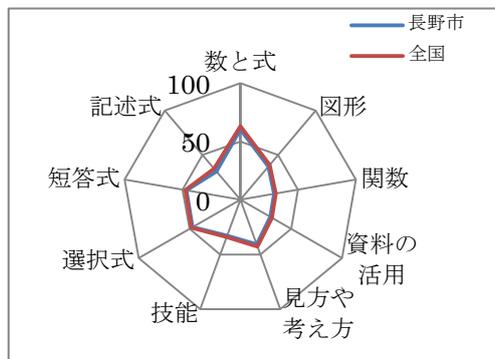
正答数分布



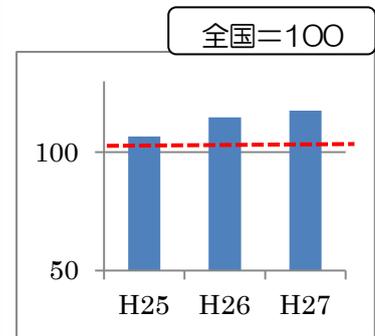
正答率40%以下の生徒の割合



領域・観点・問題形式別



無解答の生徒の割合



課題があった設問

(正答率 全国 11.7% 長野市 8.5%)

- 1 (3) 健治さんは、映像が暗くて見えにくいのではないかと気になりました。しかし、プロジェクターの光源の明るさを変えることはできません。そこで、映像の明るさについて調べると、映像の明るさと投映画面の面積の関係は、次の式で表されることがわかりました。(映像の明るさ) = (プロジェクターの光源の明るさ) ÷ (投映画面の面積) このとき、映像の明るさを2倍にするにはどうすればよいですか。下のア、イの中から正しいものを1つ選びなさい。また、それが正しいことの理由を、上の式で表される関係をもとに説明しなさい。
- ア 投映画面の面積を2倍にする。 イ 投映画面の面積を2分の1倍にする。

健治さんが調べたこと

投映距離 (m)	投映画面の大きさ		
	高さ (m)	幅 (m)	面積 (m ²)
1.0	0.6	0.8	0.48
1.5	0.9	1.2	1.08
2.0	1.2	1.6	1.92

- 投映画面の大きさは、投映距離によって変わる。
- 投映画面の形は、調整されて、いつも長方形になる。
- 投映画面の高さや幅は、投映距離に比例する。

正答 イ

説明条件 (下のaまたはbのいずれかを記述)

- a) 映像の明るさが投映画面の面積に反比例すること。
 b) 文字や数値を用いて、投映画面の面積を2分の1倍にすると映像の明るさがいつも2倍になること。

課題

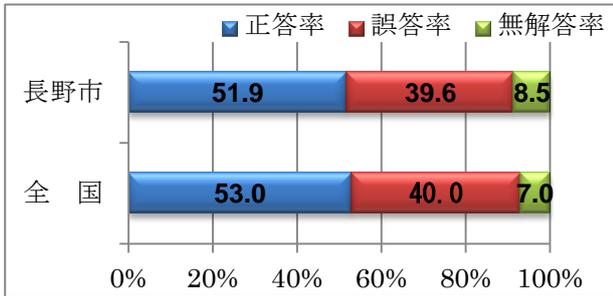
与えられた言葉の式から数量の関係を捉え、その結果について、数学的な表現を用いて説明する。

授業改善の糸口

- 反比例の関係について言葉で表された式を、文字を用いた式に置き換え、反比例の関係になっていることを捉える活動を位置付ける。
- 説明すべき事柄とその根拠を明確に区別し、数学的な表現を用いて簡潔にわかりやすく説明する活動を位置付ける。

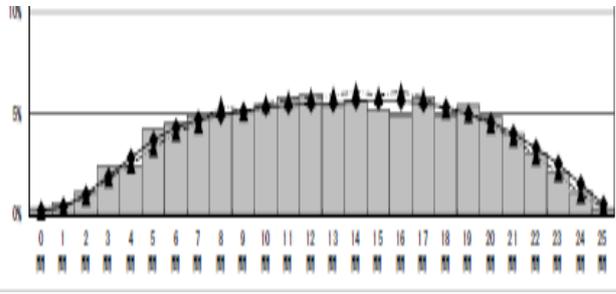
(10) 中学校理科

正答率比較

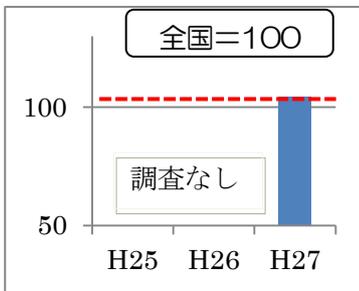


正答数分布

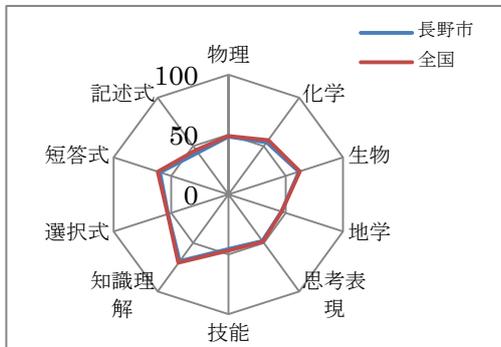
■長野市 ▲長野県 ●全国



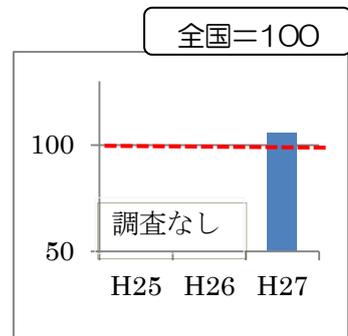
正答率40%以下の生徒の割合



領域・観点・問題形式別



無解答の生徒の割合



課題があった設問

(正答率 全国 47.4% 長野市 42.7%)

⑧ (3) 【考察は】課題Ⅱに対して適切とは言えません。課題Ⅱに対して適切な【考察】となるように、下線部を書き直しなさい。

正答の条件

水温が高くなると、えらぶたの開閉回数が増える傾向について

記述しているもの

最も多い誤答 無解答 (31.3%)

レポートの続き

【課題Ⅱ】
ほかの種類魚でも、えらぶたの開閉回数は、水温が高くなると増えるのだろうか。

【方法】
フナとナマズをそれぞれ3匹用意し、【課題Ⅰ】と同様に実験を行い、【課題Ⅰ】のハゼの【結果】と比較する。

【結果】
表2

水温	10℃	15℃	20℃	25℃
ハゼ	8	17	32	43
フナ	36	42	52	57
ナマズ	28	32	44	65

* 数値はそれぞれ3匹の平均値

【考察】
【結果】の表2から、水温が10℃から25℃の範囲では、同じ水温でも、魚の種類によってえらぶたの開閉回数は異なると考えられる。

課題

課題に対して適切な考察（課題に正対した考察）になるよう修正する。

授業改善の糸口

- 1) 自分の考察を振り返ったり、他者の考察を協働で検討して改善したりする学習場面（特に2つの独立変数のうち、一方を変えない条件、他方を変える条件として行った実験において）を設定する。
- 2) 設定した課題に対して、考察が正対しているか確認をする場面を位置付ける。

2 C 学力について（長野市の大切にしている資質・能力）

長野市の児童生徒の【未来力】は、全国と比べて大きく上回っています。

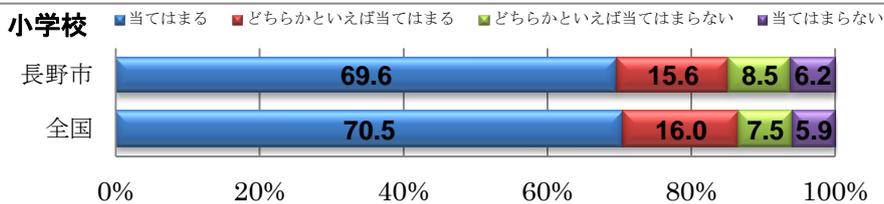
【自律力】、【絆力】は全国と同じ程度です。

【実践力】は、全国を下回っており長野市の課題です。小学生の【未来力】【絆力】、中学生の【自律力】【実践力】に回復傾向が見られます。

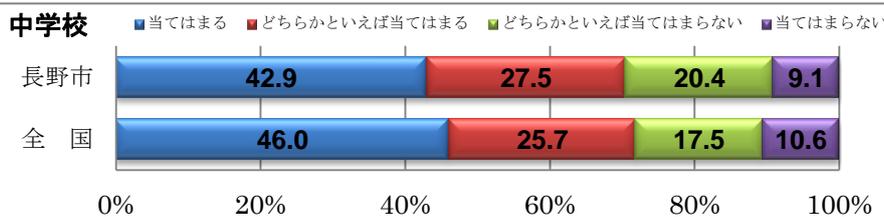
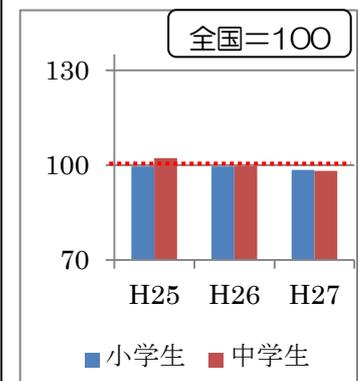
(1) 4つの力（児童生徒質問紙）

【未来力】 将来の夢や目標と見通しを持ち、努力を継続できる力

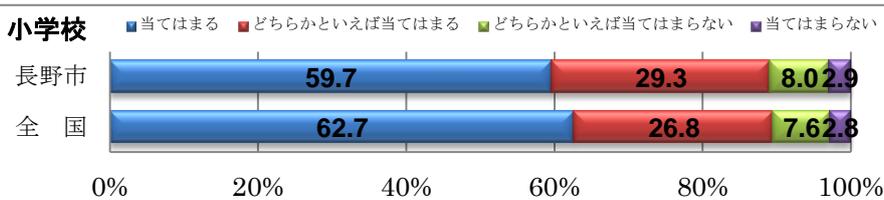
将来の夢や目標を持っていますか。



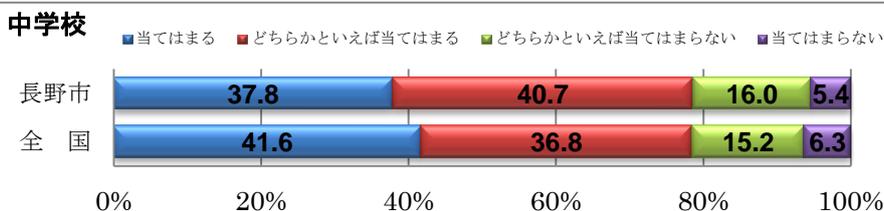
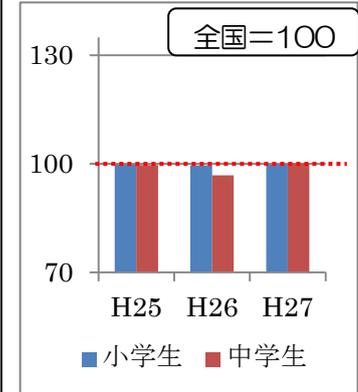
「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」



国語や算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか。

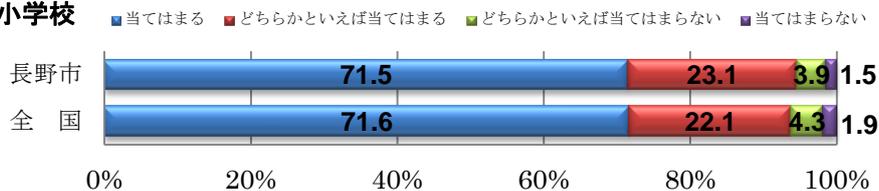


「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」

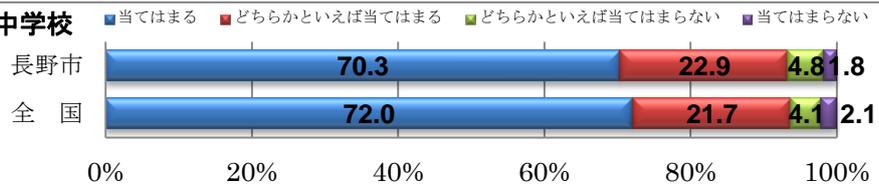


人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

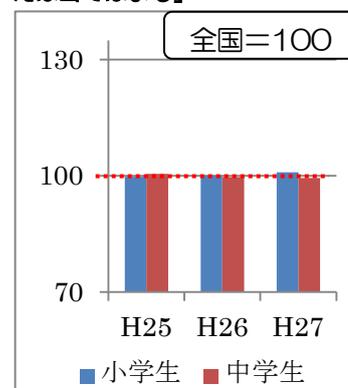
小学校



中学校

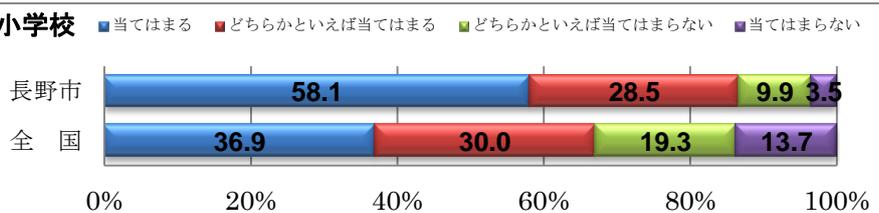


「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」

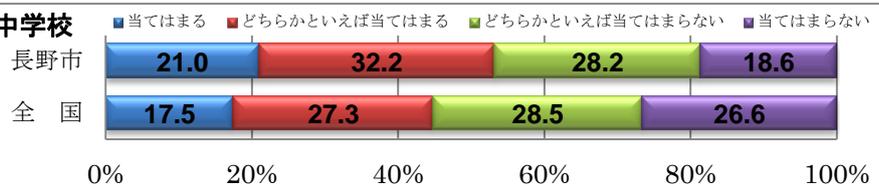


今住んでいる地域の行事に参加していますか。

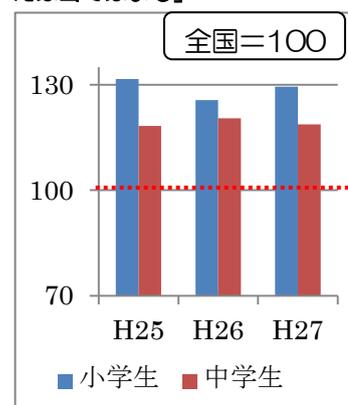
小学校



中学校



「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」



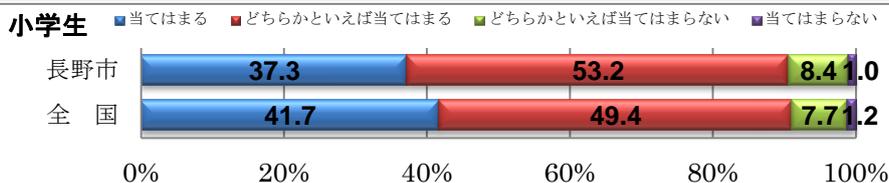
【未来力】

「将来の夢や目標を持っていますか。」に肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学生、中学生とも全国を下回りました。

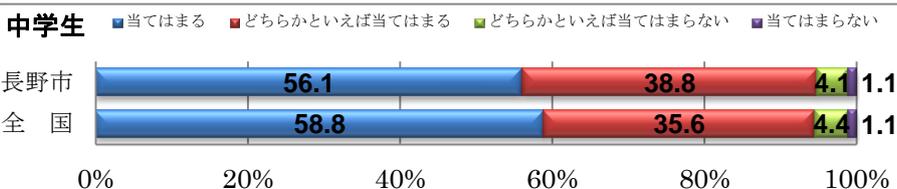
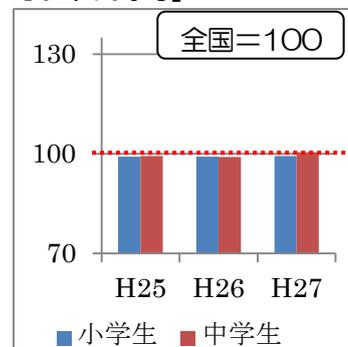
「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」に肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学生、中学生とも全国と比べて大きく上回っています。

【自律力】 規範意識を持ち、自分をコントロールする力

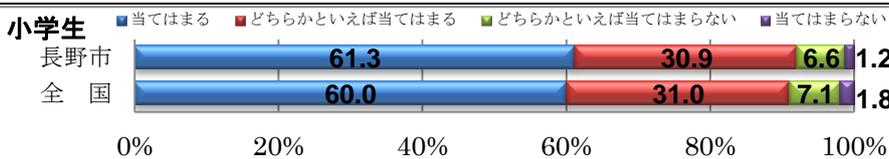
学校のきまり（規則）を守っていますか。



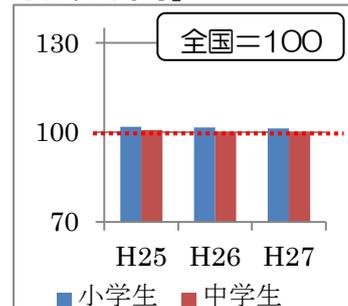
「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」



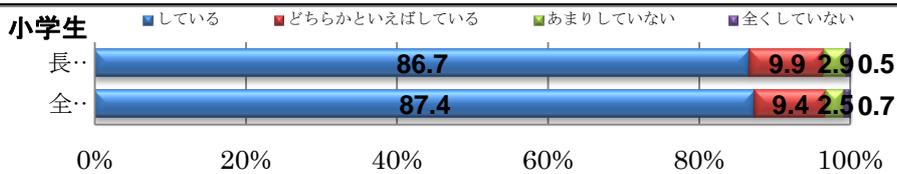
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



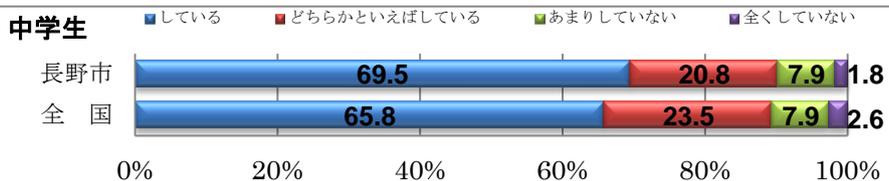
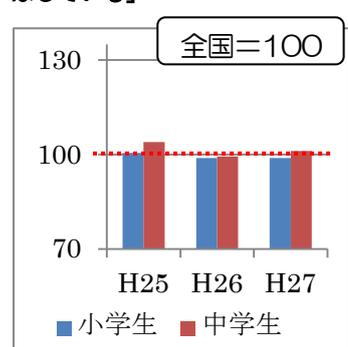
「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」



家で、学校の宿題をしていますか。



「している」と「どちらかといえばしている」

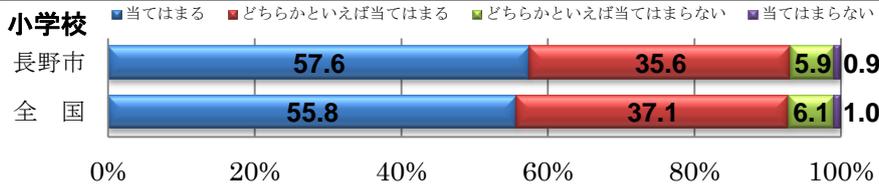


【自律力】

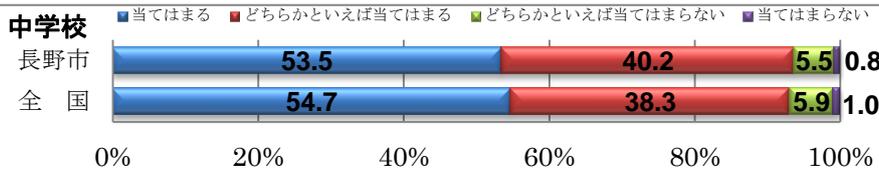
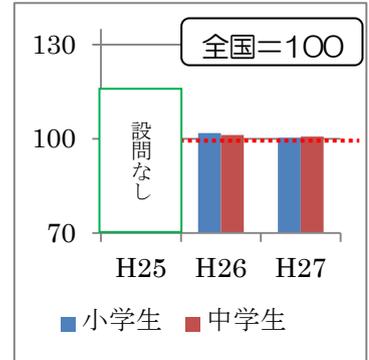
3つの質問の回答とも、全国と同様の傾向です。

【絆 力】 他者を尊重し、積極的に人間関係を築こうとする力

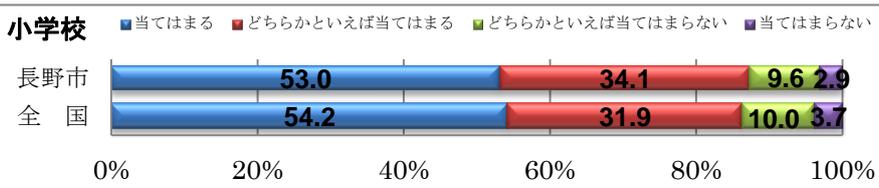
友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。



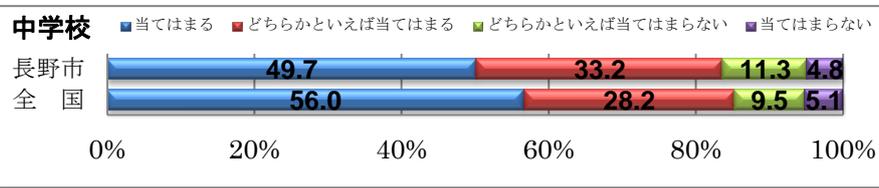
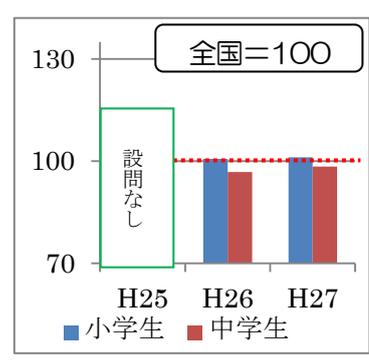
「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」



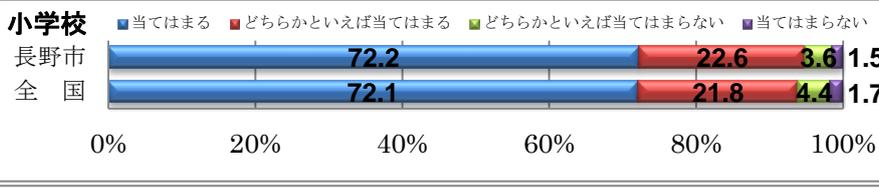
学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。



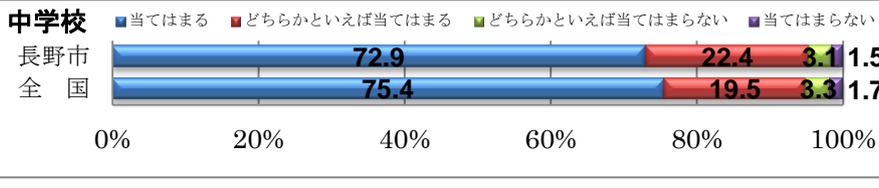
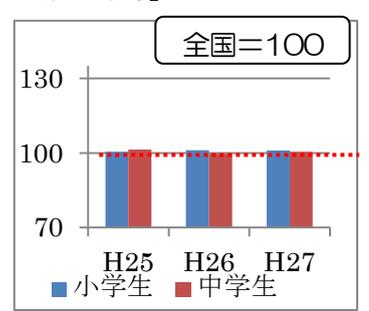
「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」



人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。



「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」

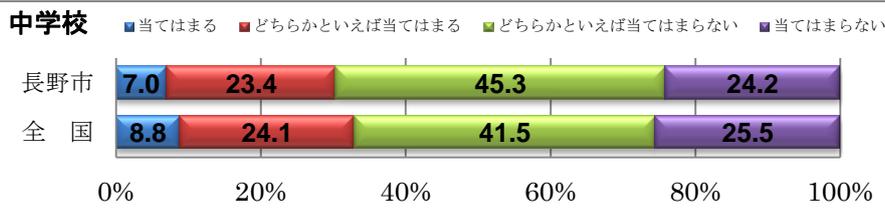
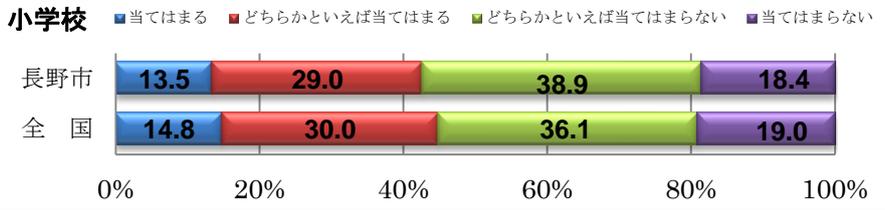


【絆 力】

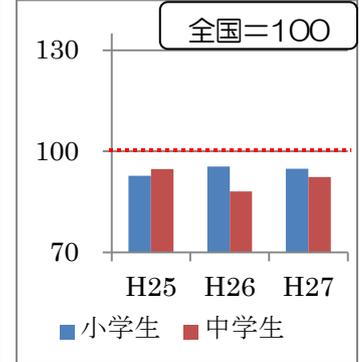
3つの質問の回答とも、全国と同様の傾向です。

【実践力】 獲得した知識・技能及び思考力・表現力を駆使して、粘り強く課題に対応し、行動する力

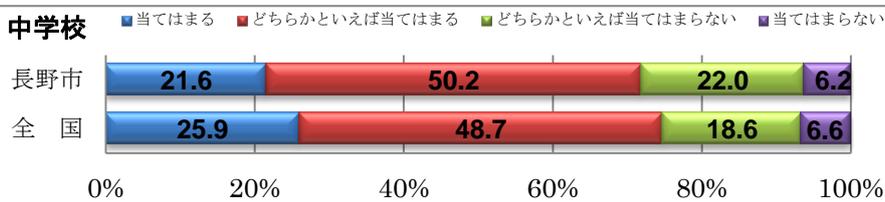
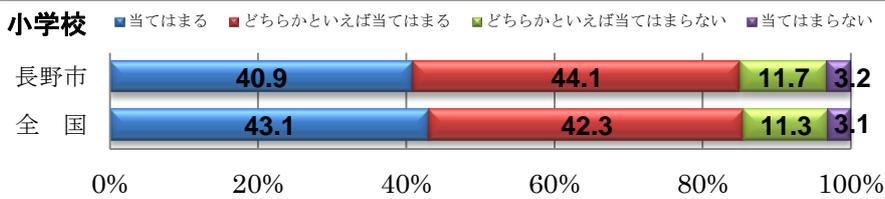
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。



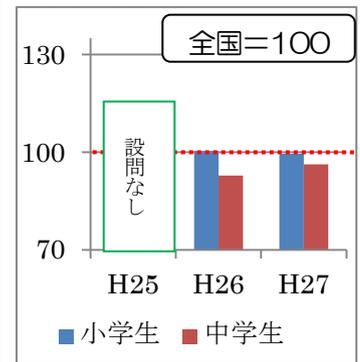
「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」



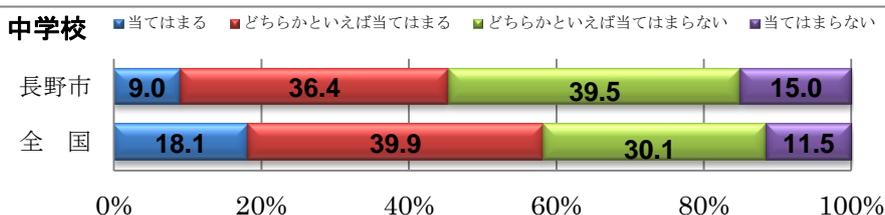
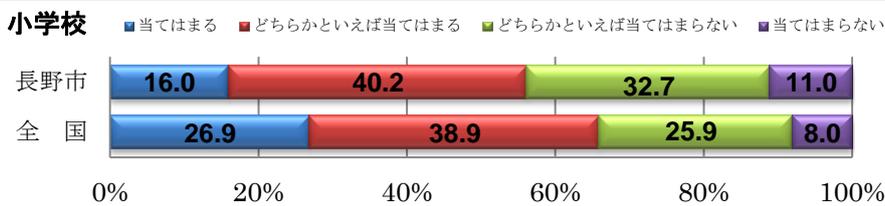
「総合的な学習の時間」で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか。



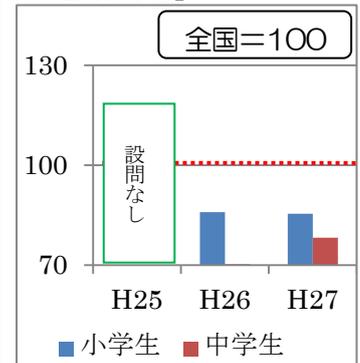
「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」



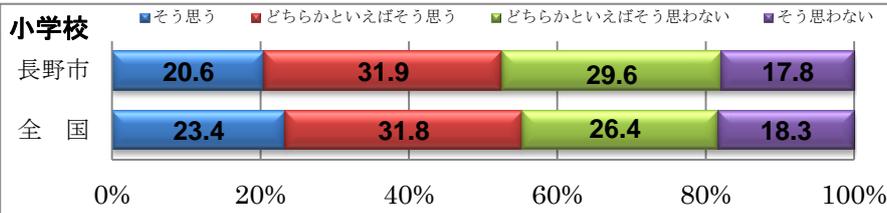
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



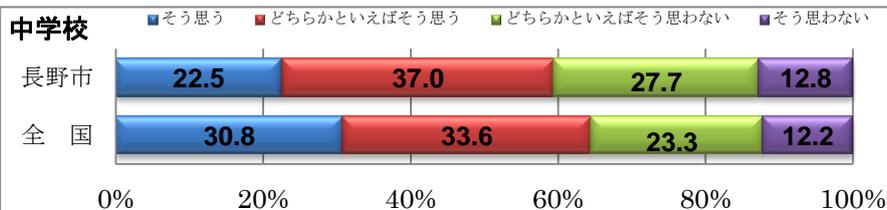
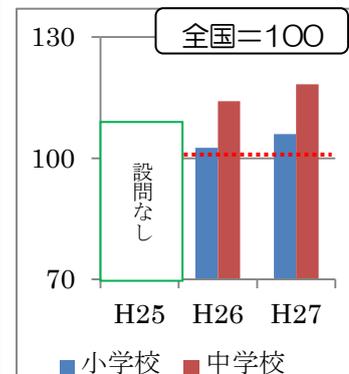
「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」



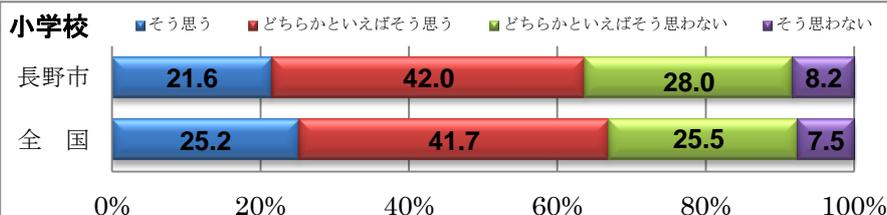
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。



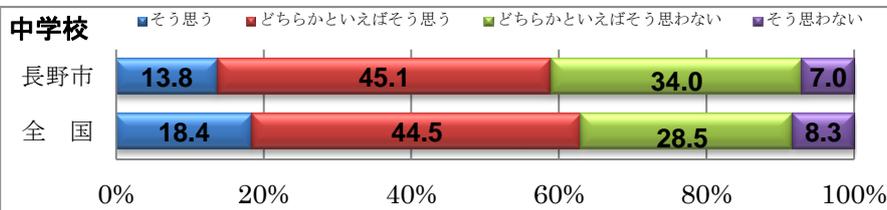
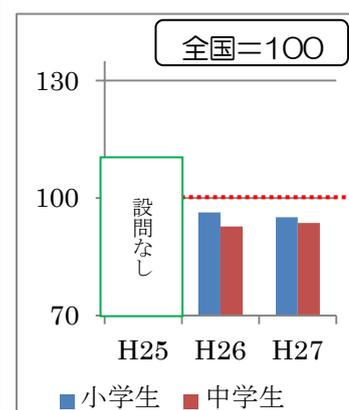
「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」



学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」



【実践力】

「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。」の質問に対して、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と回答した児童生徒は増加しました。

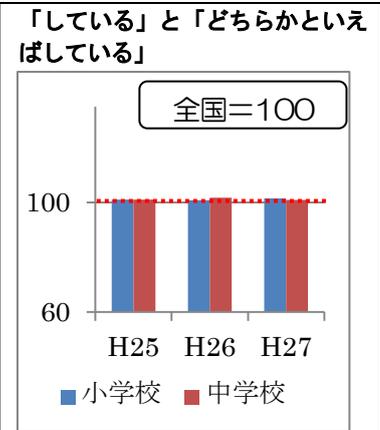
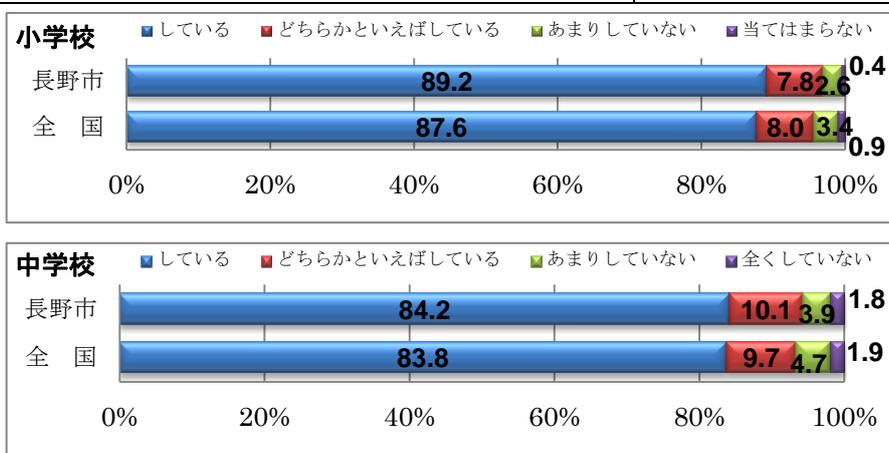
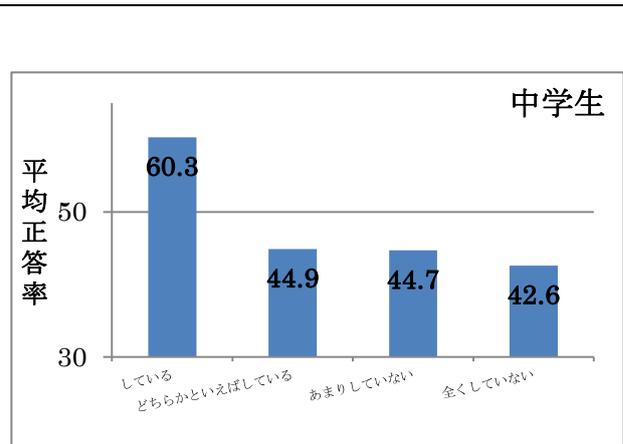
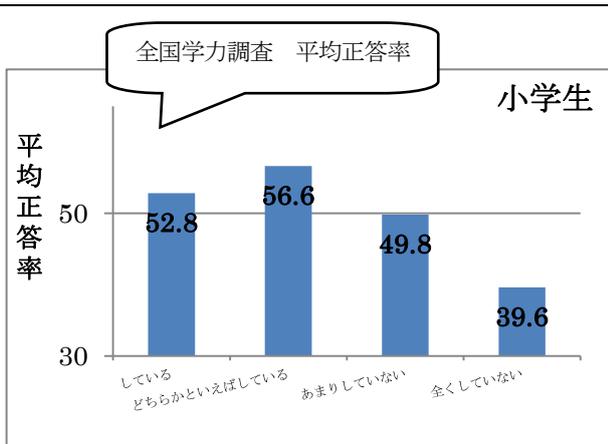
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童生徒は、全国と比べ低い状況です。

3 家庭の7つの取組と学力の関係

平成26年度の児童生徒質問紙調査では、以下の7つの項目と、全国学力・学習状況調査の正答率には、相関関係があることがわかってきました。ここでは、昨年度と同様の質問に対して、平成27年度の調査結果をまとめて紹介しています。

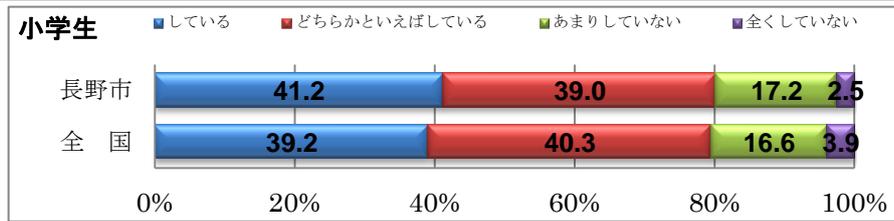
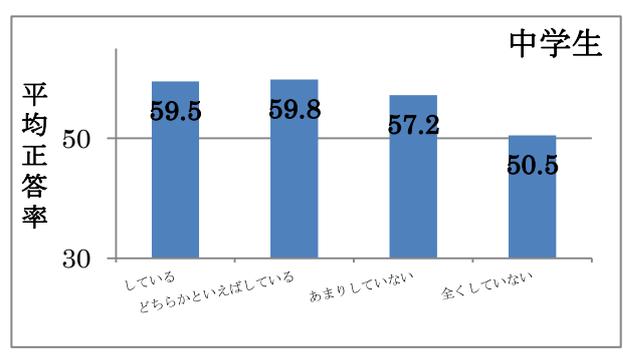
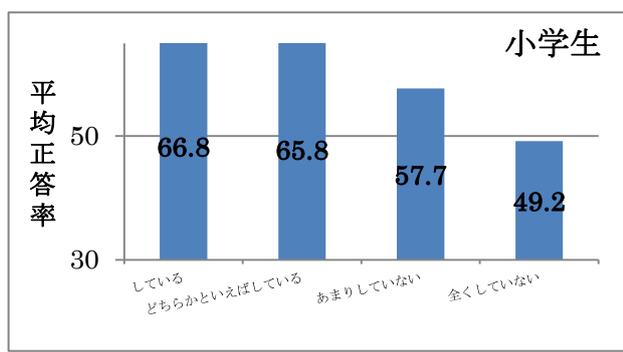
1 毎日、朝食を家で食べさせましょう

朝食を毎日食べていますか。

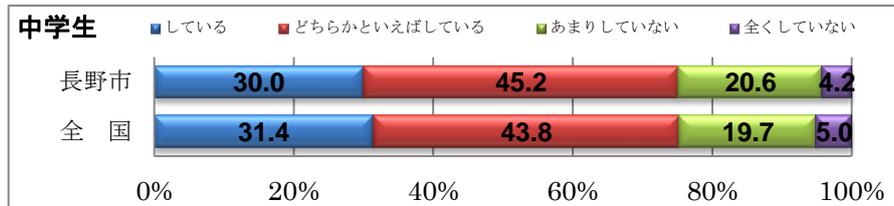
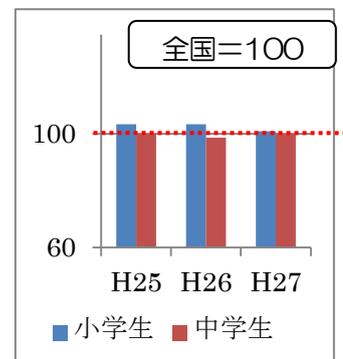


2 規則正しい生活をさせましょう

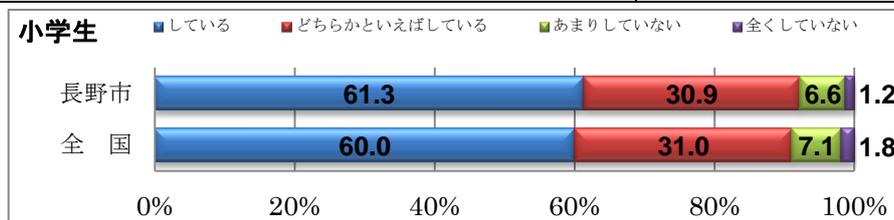
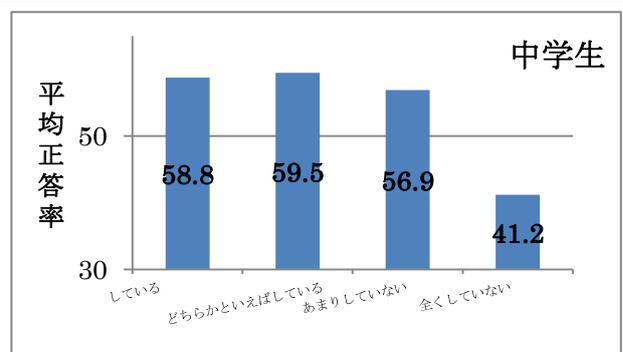
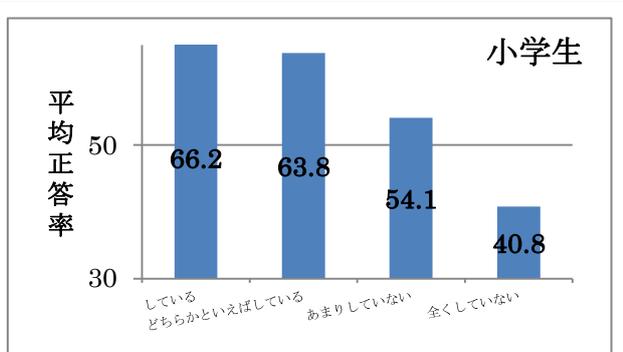
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



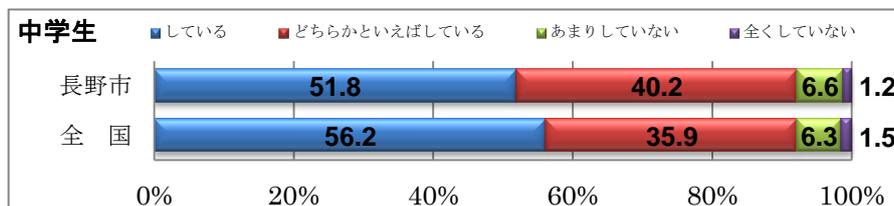
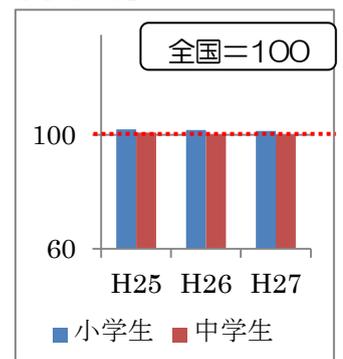
「している」と「どちらかといえぼしている」



毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

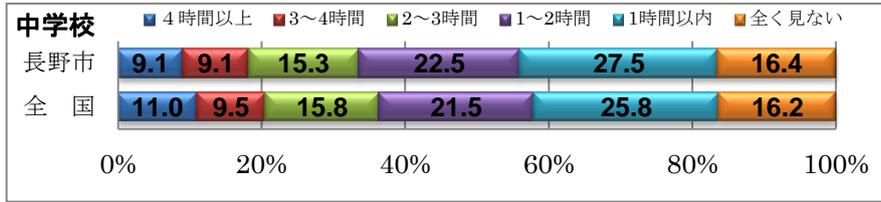
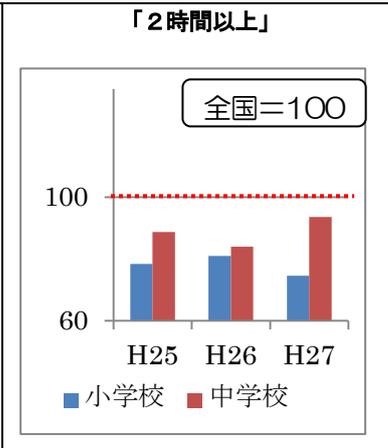
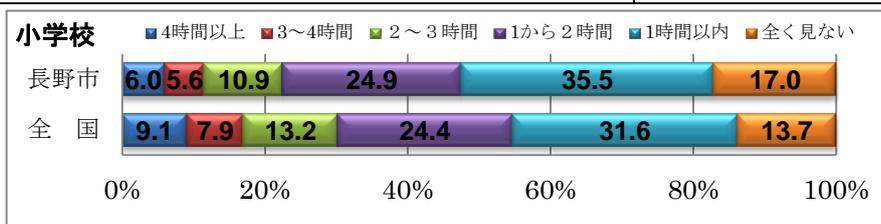
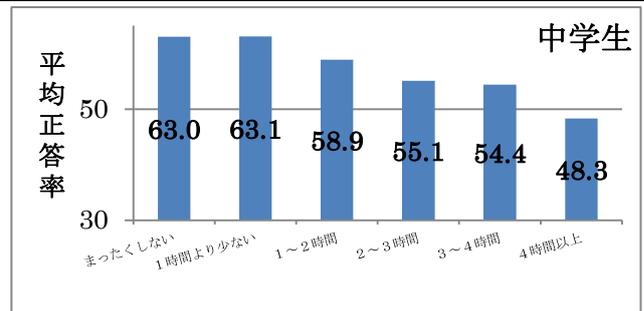
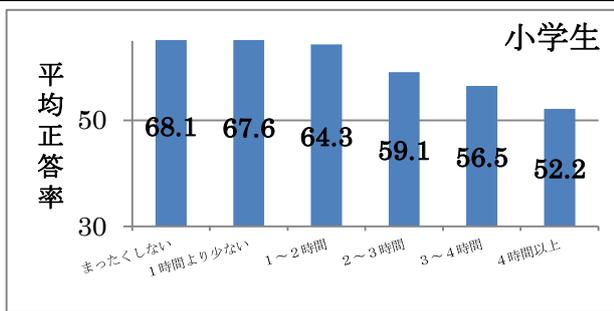


「している」と「どちらかといえぼしている」

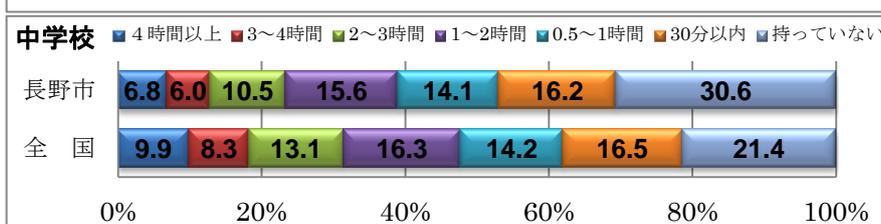
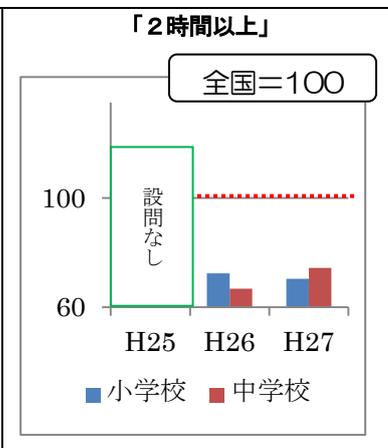
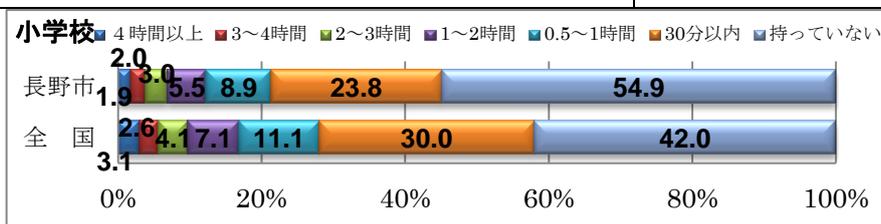
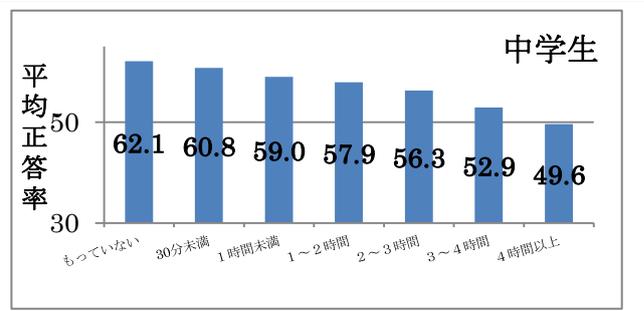
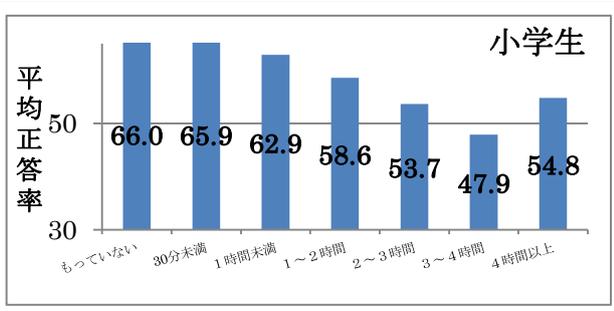


3 ゲームや携帯電話、スマートフォンの時間のルールを決めましょう

平日、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。

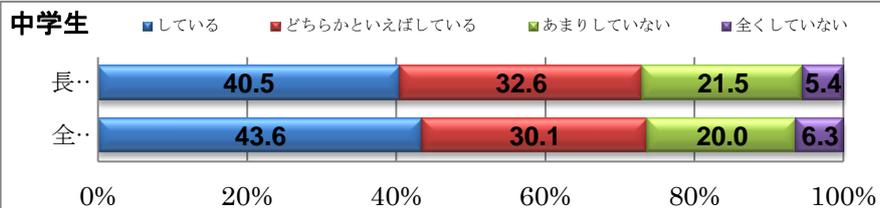
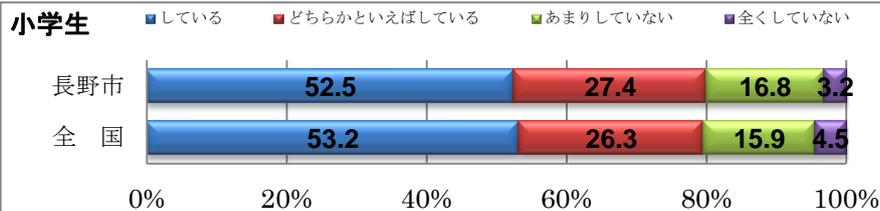
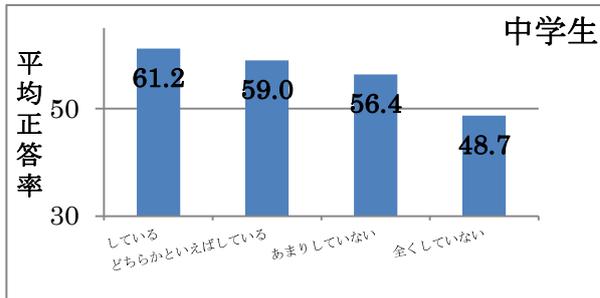
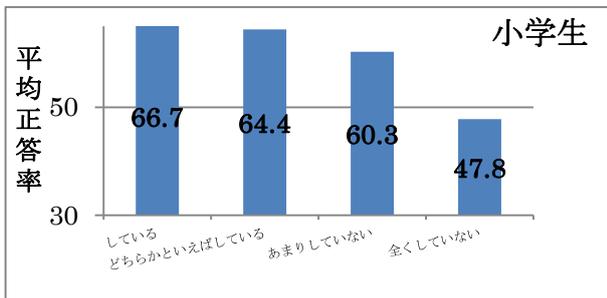


平日どれくらいの時間、携帯電話（スマホ）で通話やメール、インターネットをしますか。

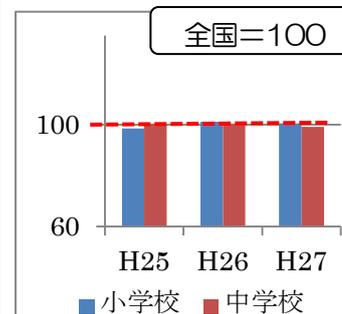


4 学校での出来事について、話を聞きましょう

家の人と学校での出来事について話をしますか。

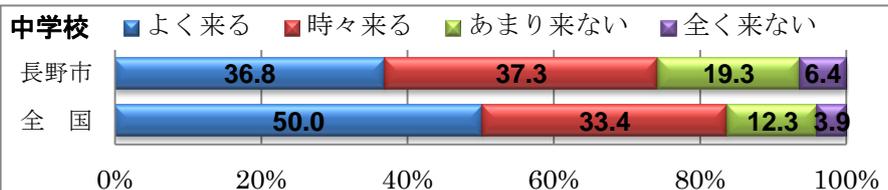
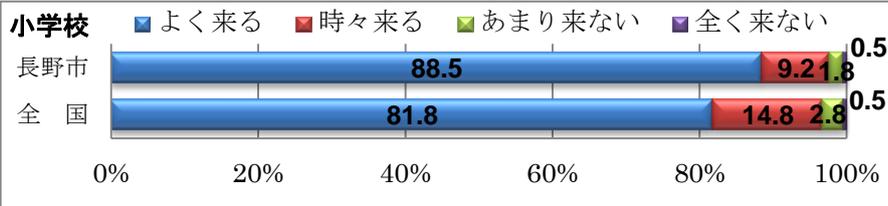
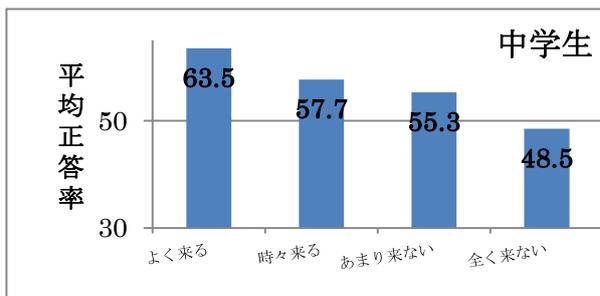
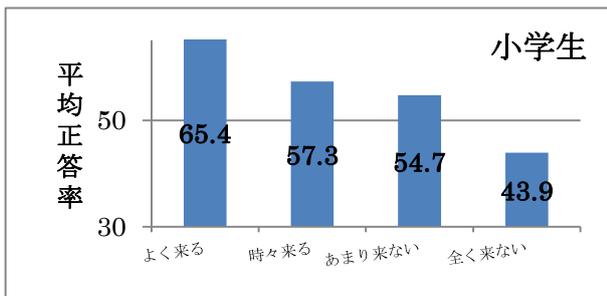


「している」と「どちらかといえばしている」

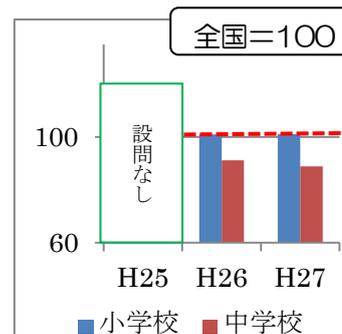


5 できるだけ、授業参観や運動会などの学校行事に行きましょう

家の方は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか。

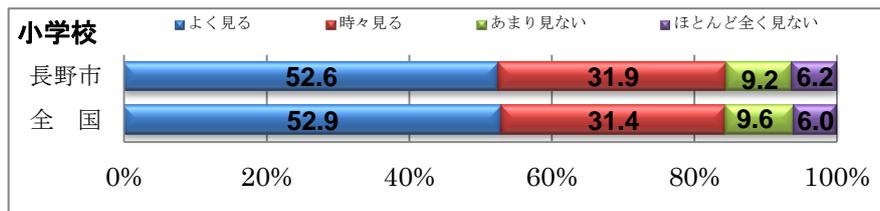
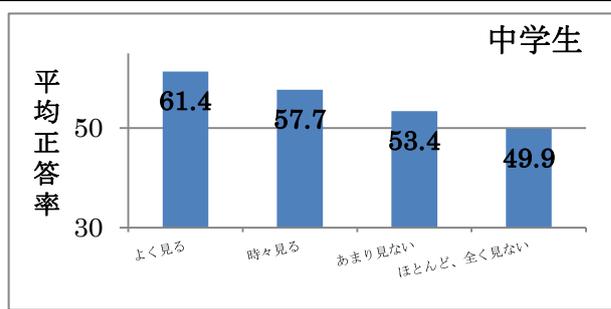
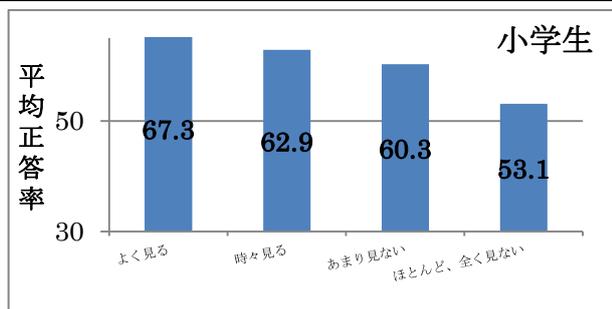


「よく来る」と「時々来る」

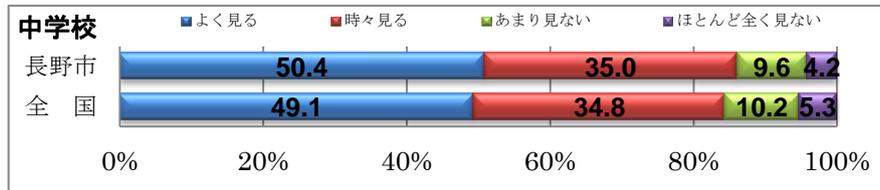
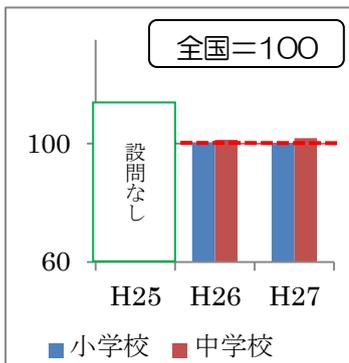


6 ニュースに関心を待たせましょう

テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。

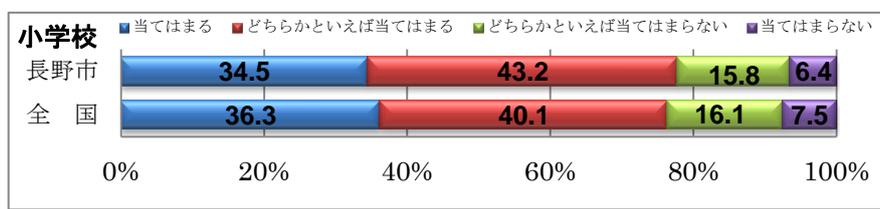
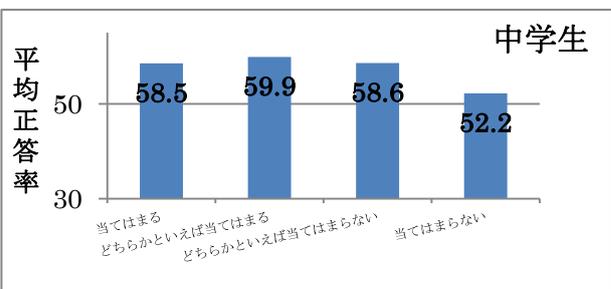
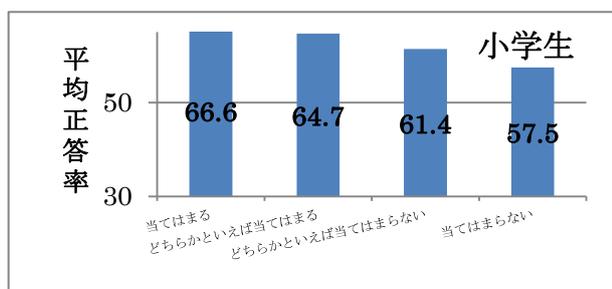


「よく見る」と「時々見る」

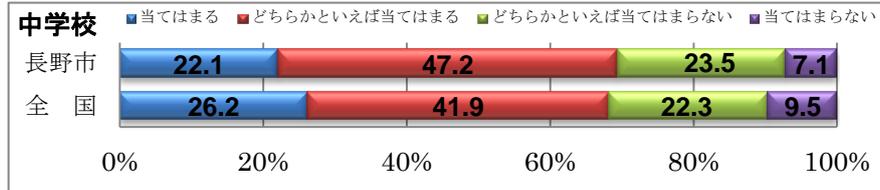
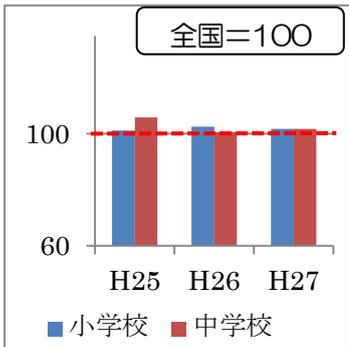


7 よいところを、たくさん見つけ、どんどんほめましょう

自分には、よいところがあると思いますか。



「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」



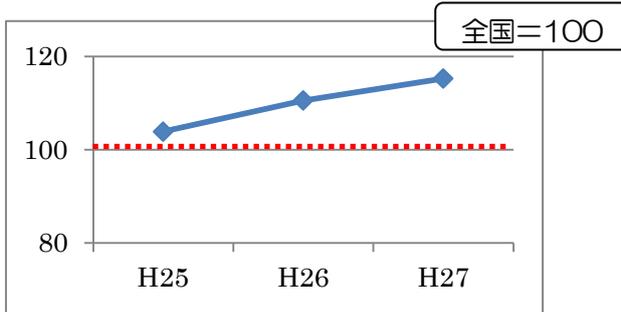
V 学力向上に効果を上げている学校の取組

平成 25～27 年度までの国語 A・B、算数・数学 A・B の4科目の平均正答率の値が、上昇している、または安定して高い学校群の中から、取組に特徴のある学校を6校抽出しました。
 学力向上に効果があったと考えられる取組について、NRT や Q-U、児童生徒質問紙調査や学校質問紙調査から、紹介しています。

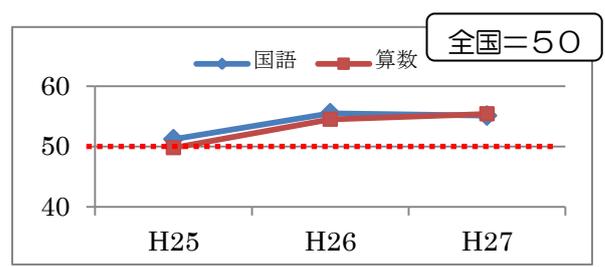
1 効果を上げている学校の取組（抜粋）

(1) A小学校 ～基礎基本の定着に取り組んだ学校～

全国学力・学習状況調査の平均正答率の全国比の推移

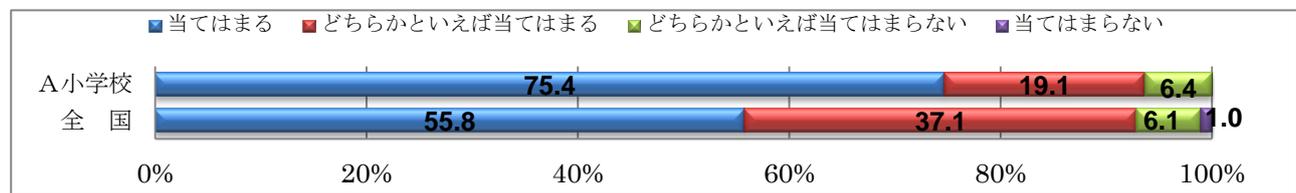


標準学力検査（NRT）の偏差値の推移
（国語・算数）

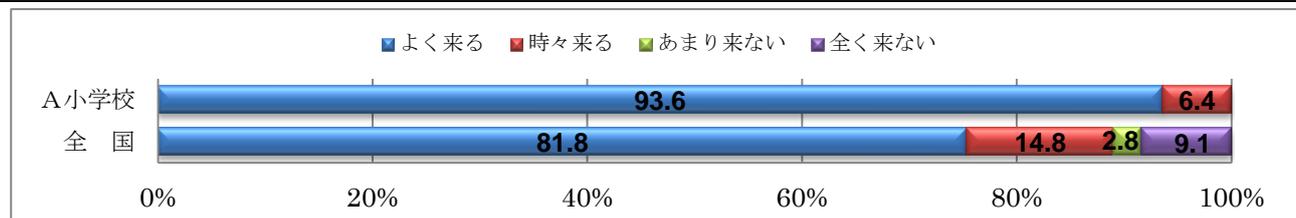


○ 平成 27 年度 児童質問紙調査結果

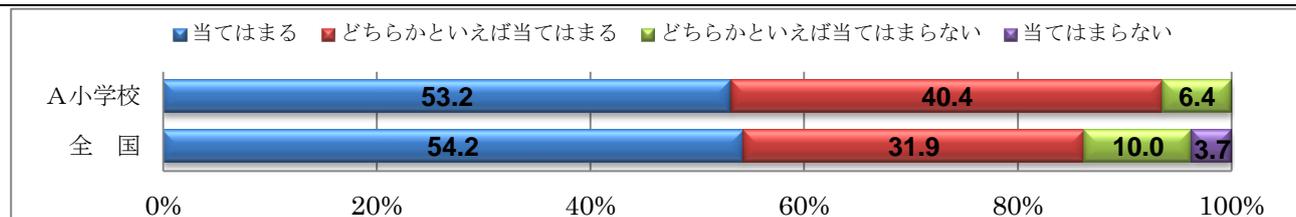
友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。

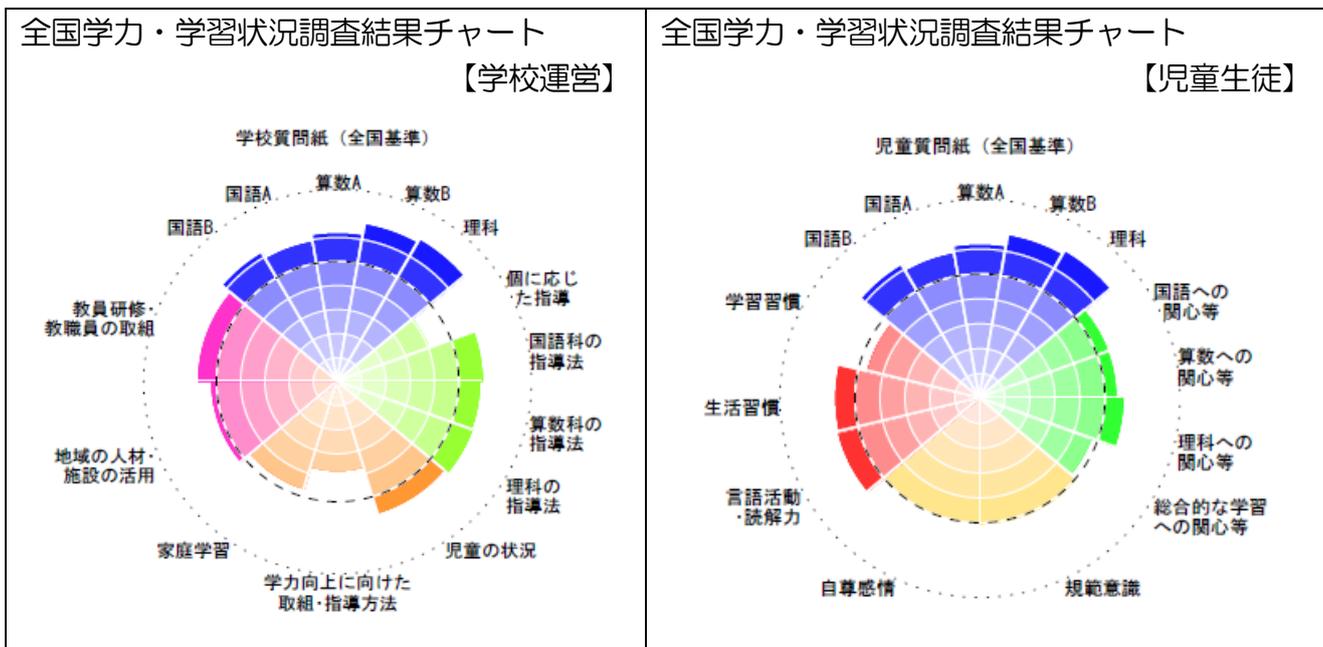


家の人は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか。



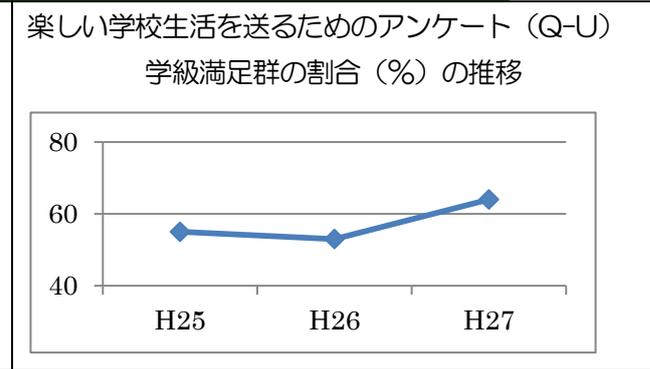
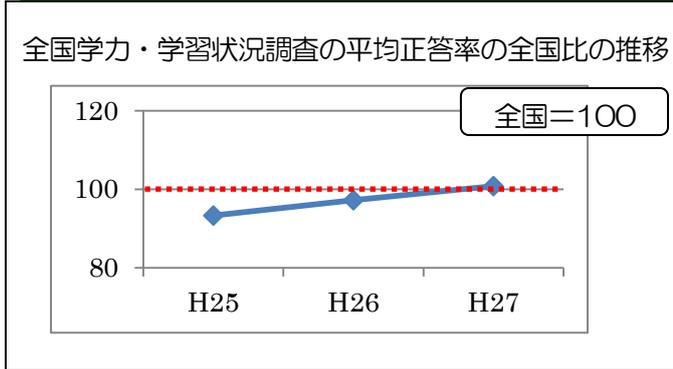
学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。





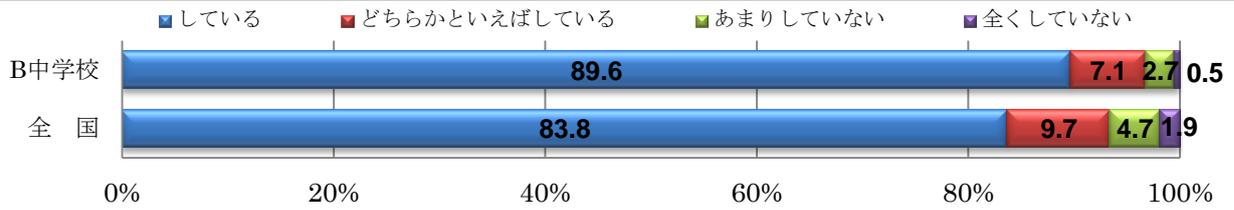
- 標準学力調査 (NRT) を活用した授業改善が進んでいます。
- 学校質問紙調査では、下記の質問に肯定的に回答しています。
 - ◇ 「授業の冒頭で目標 (めあて・ねらい) を示す活動を計画的に取り入れていましたか。」
 - ◇ 「学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ、児童に伝えるなど積極的に評価しましたか。」
 - ◇ 「学力向上のための取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか。」
 - ◇ 「学校全体の学力向上や課題について、全教職員の間で共有していますか。」

(2) B中学校 ～授業規律・学習規律の確立に力を入れた学校～

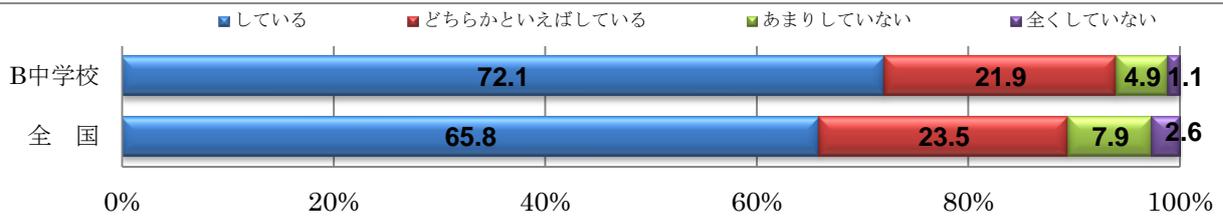


○ 平成27年度 生徒質問紙調査結果

朝食を毎日食べていますか。



家で、学校の宿題をしていますか。

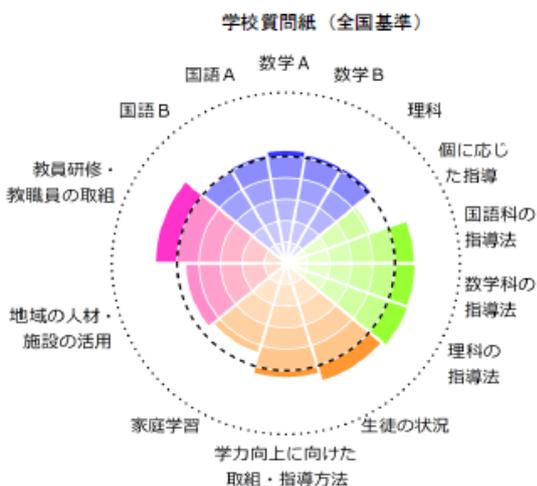


学校の規則を守っていますか。



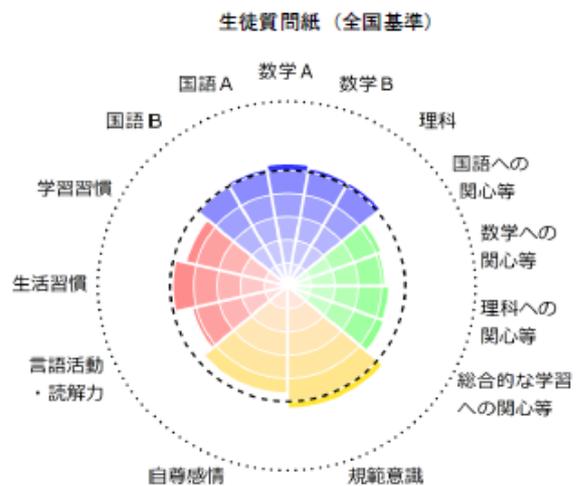
全国学力・学習状況調査結果チャート

【学校運営】



全国学力・学習状況調査結果チャート

【児童生徒】



○ Q-U を活用した学習集団づくりが進んでいます。

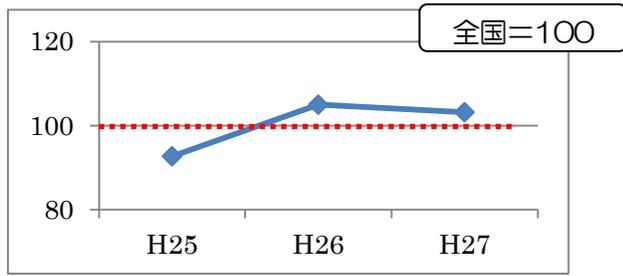
○ 学校質問紙調査では、下記の質問等に肯定的に回答しています。

◇ 「対象学年の生徒は、授業中私語が少なく、落ち着いていると思いますか。」

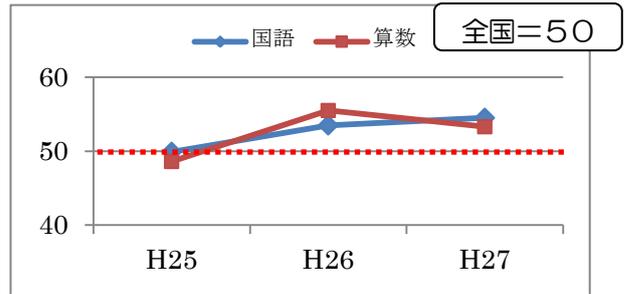
- ◇「授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか。」
- ◇「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか。」
- ◇「学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、生徒に伝えるなど積極的に評価しましたか。」
- ◇「学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか。」

（3） C小学校 ～学級運営の課題に組織的に対応した学校～

全国学力・学習状況調査の平均正答率の全国比の推移

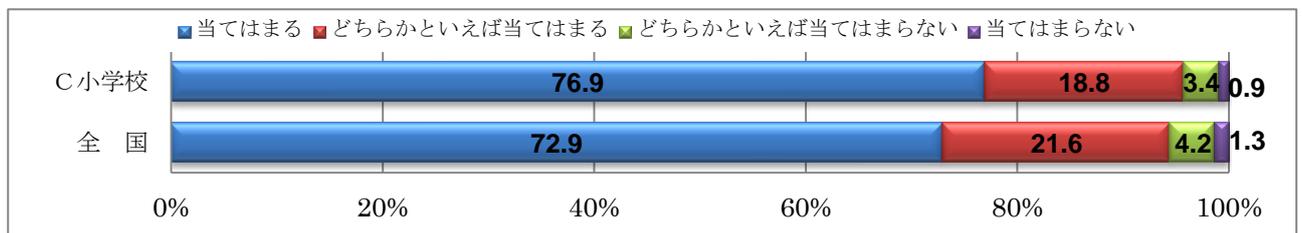


標準学力検査（NRT）の偏差値の推移
（国語・算数）

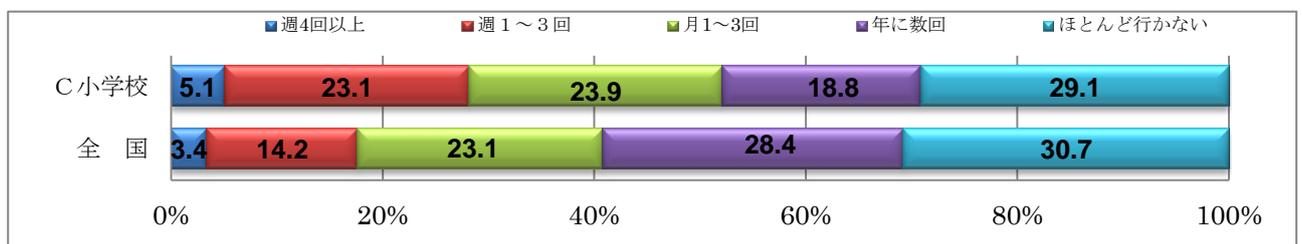


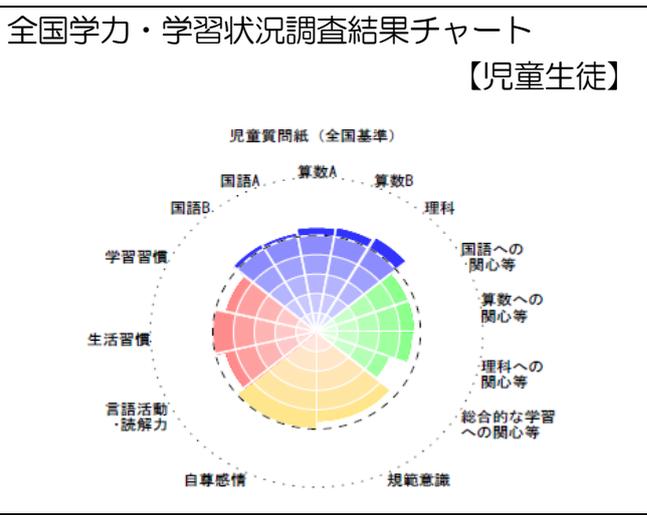
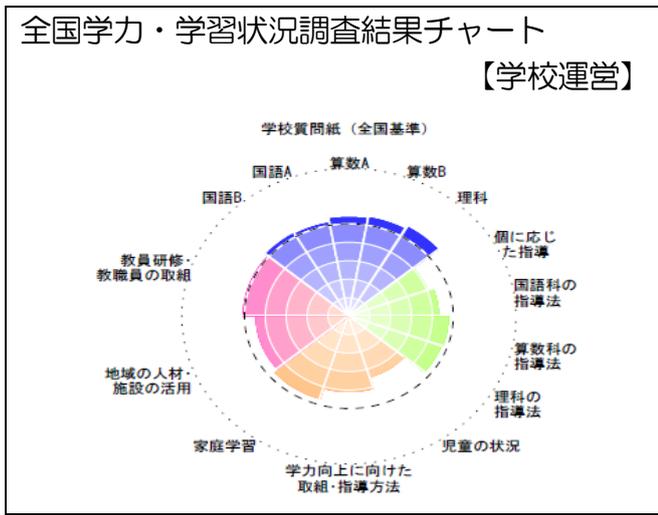
○ 平成 27 年度 児童質問紙調査結果

ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。



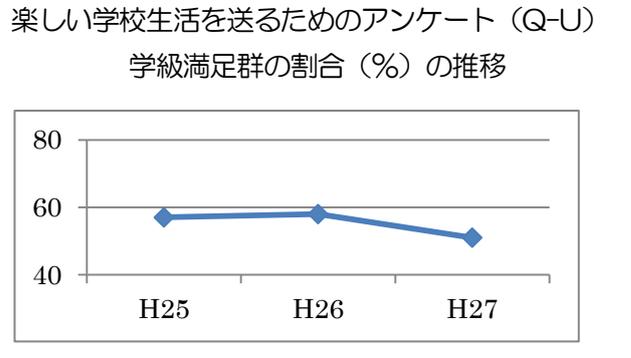
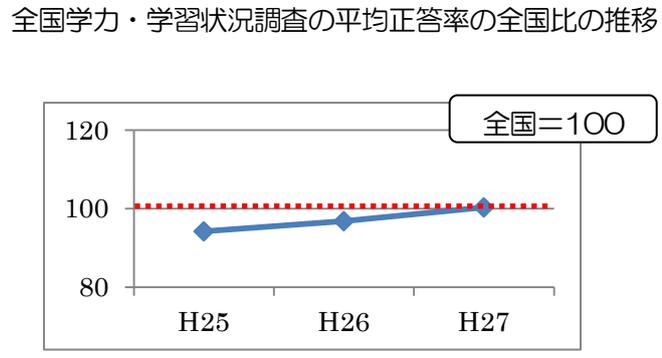
昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。





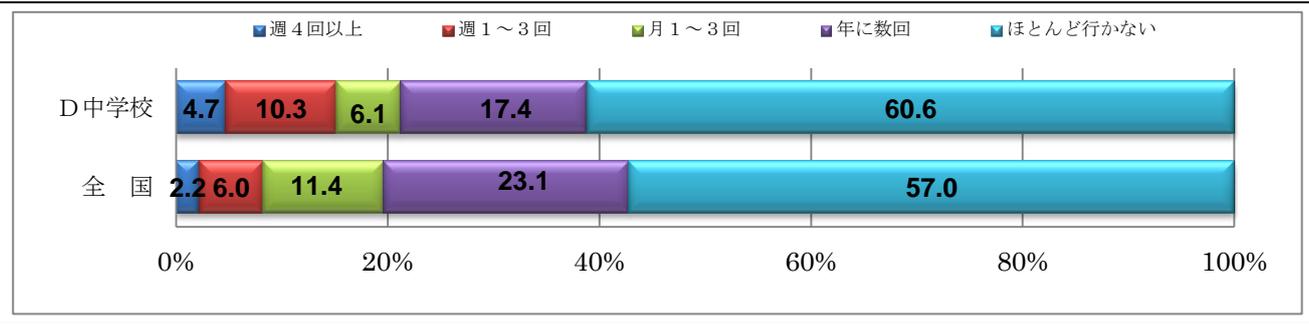
- 標準学力調査（NRT）を活用した授業改善が進んでいます。
- 学校質問紙調査では、下記の質問等に肯定的に回答しています。
 - ◇「発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか。」
 - ◇「学習規律の維持を徹底しましたか。」
 - ◇「特別支援教育について理解し、児童生徒の特性に応じた指導の工夫を行いましたか。」
 - ◇「地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか。」
 - ◇「学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか。」

（４） D中学校 ～同僚性の向上を目指し校内研修を充実させた学校～

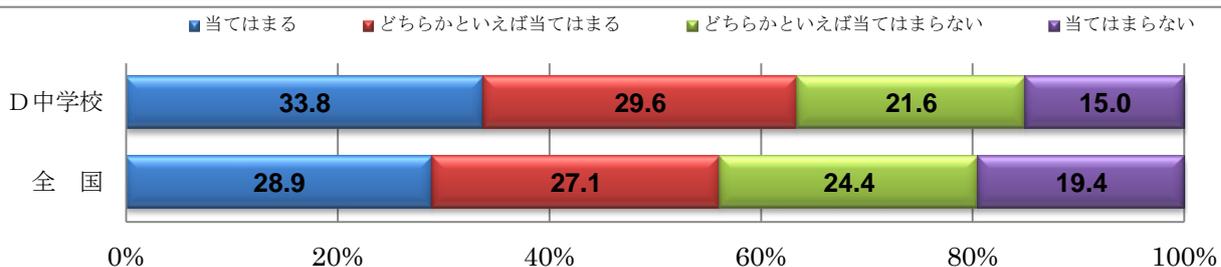


○ 平成 27 年度 生徒質問紙調査結果

昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。

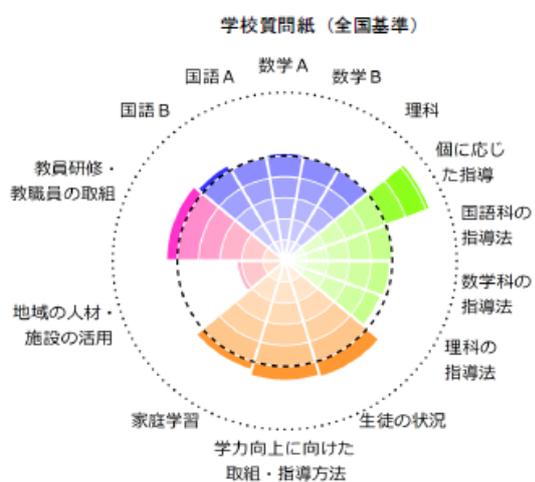


数学の勉強は好きですか。



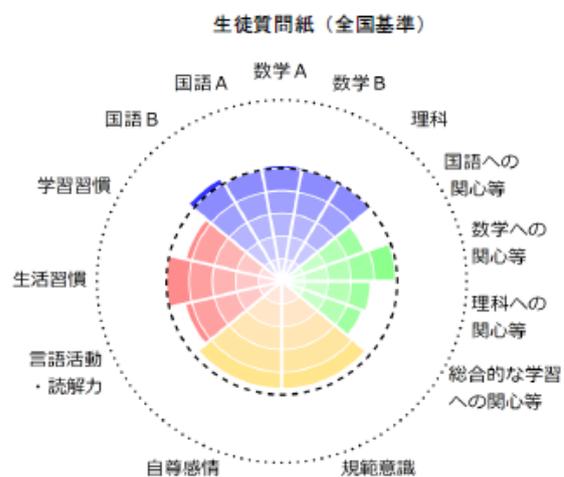
全国学力・学習状況調査結果チャート

【学校運営】



全国学力・学習状況調査結果チャート

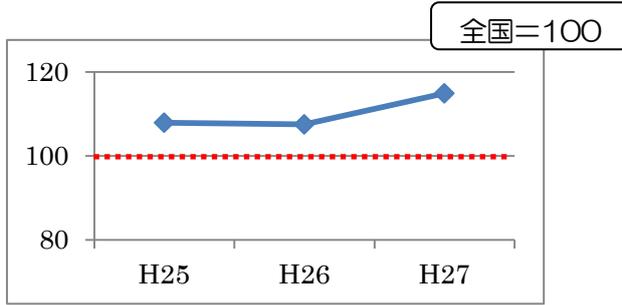
【児童生徒】



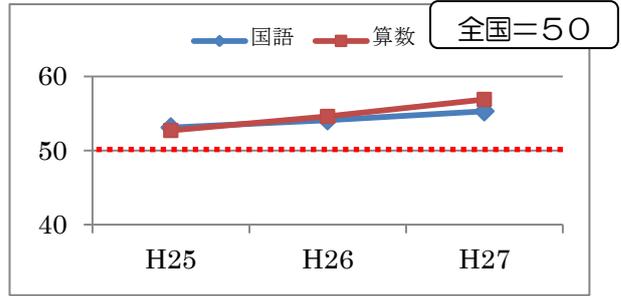
- Q-U を活用した学習集団づくりを進めています。
- 学校質問紙調査では、下記の質問等に肯定的に回答しています。
 - ◇ 「朝読書などの一斉読書の時間を設けましたか。」
 - ◇ 「授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか。」
 - ◇ 「発言や活動の時間を確保して授業を進めましたか。」
 - ◇ 「全国学力・学習状況調査の自校の分析について、対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。」
 - ◇ 「学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか。」
 - ◇ 「学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか。」

(5) E小学校 ～児童に寄り添った評価に取り組んだ学校～

全国学力・学習状況調査の平均正答率の全国比の推移

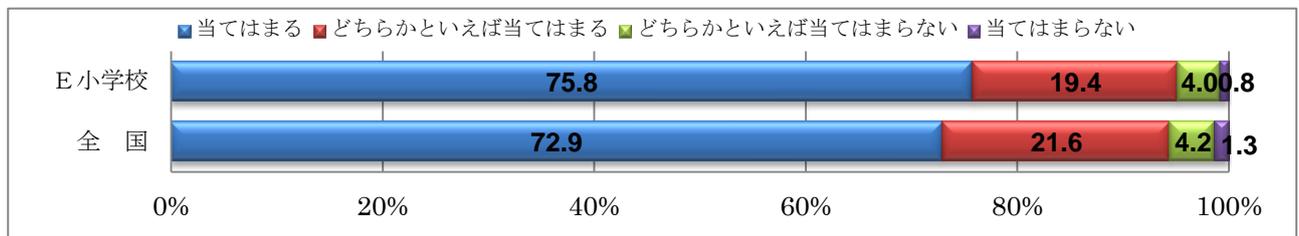


標準学力検査（NRT）の偏差値の推移
（国語・算数）

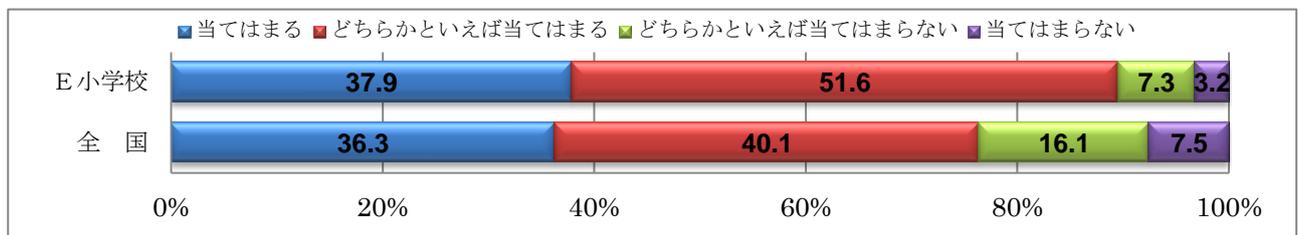


○ 平成27年度 児童質問紙調査結果

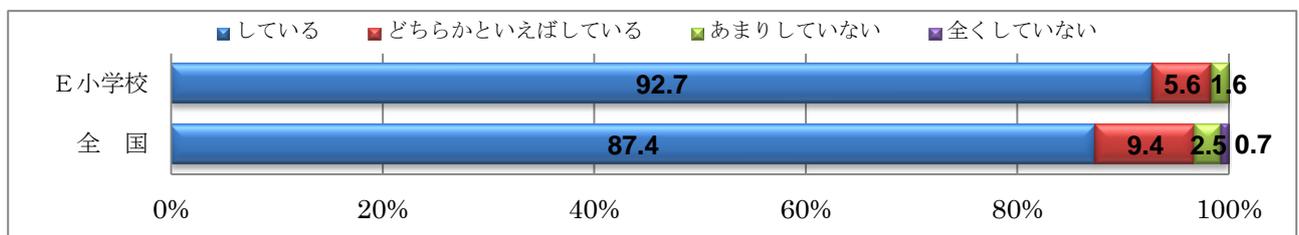
ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。

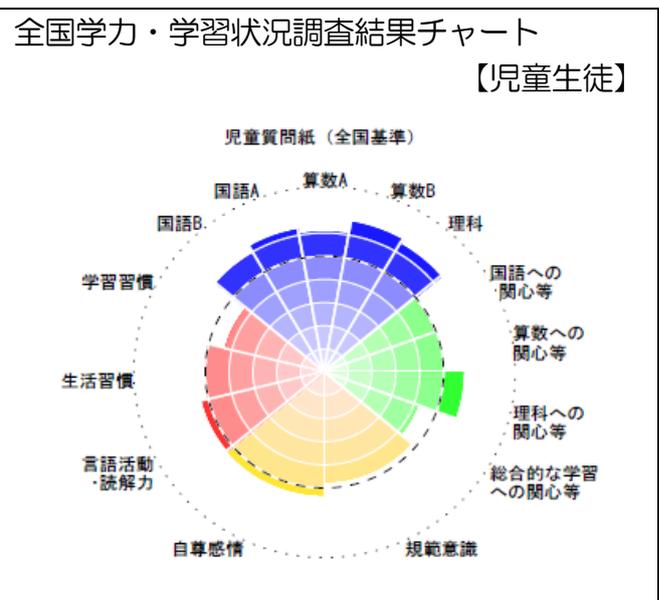
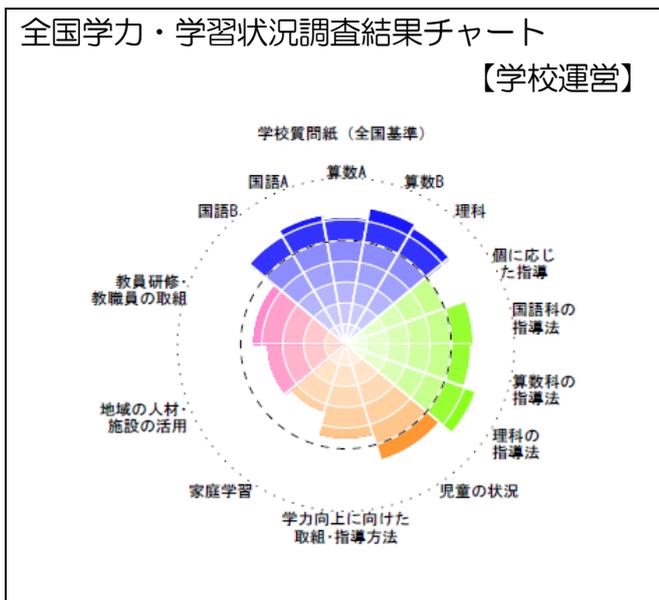


自分には、よいところがあると思いますか。



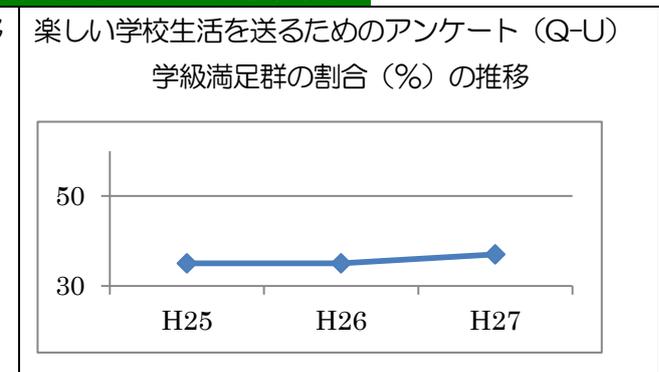
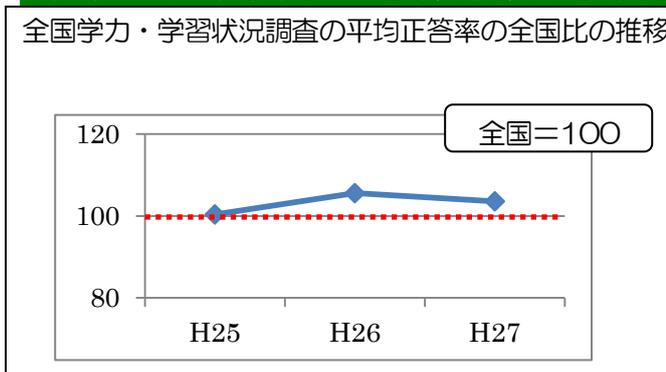
家で、学校の宿題をしていますか。



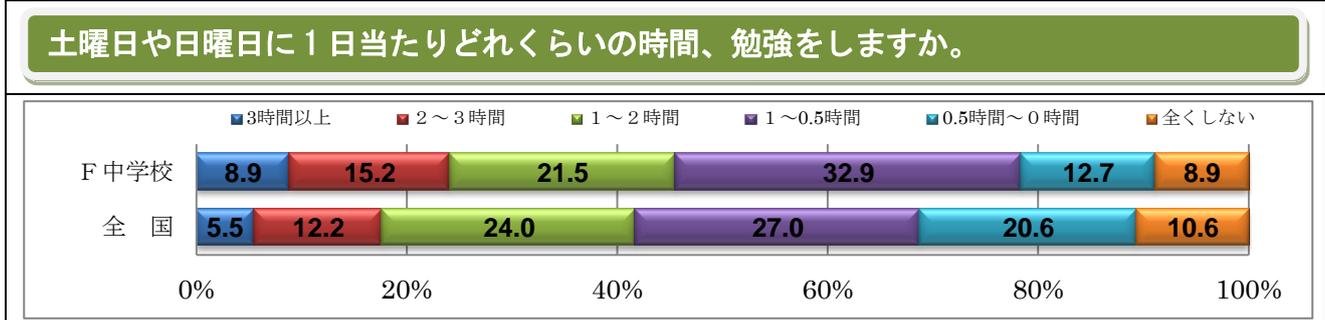


- 標準学力調査 (NRT) を活用した授業改善が進んでいます。
- 学校質問紙調査では、下記の質問等に肯定的に回答しています。
 - ◇ 「図書館を利用した授業を計画的に行いましたか。」
 - ◇ 「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか。」
 - ◇ 「学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか。」
 - ◇ 「児童一人一人のよい点や可能性を見つけ、児童に伝えるなど積極的に評価しましたか。」
 - ◇ 「学級全員で取組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか。」
 - ◇ 「教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加するようにしていますか。」

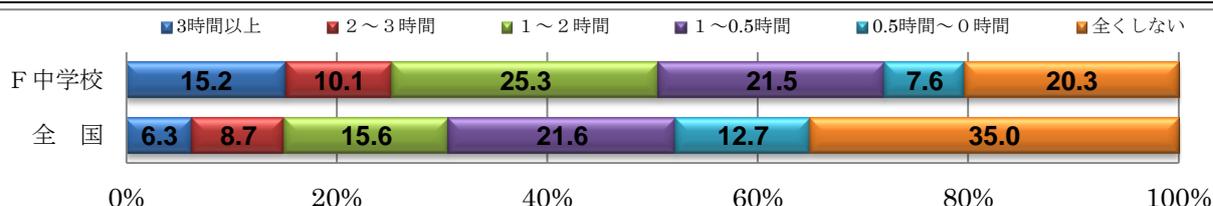
(6) F中学校 ～授業と繋がる家庭学習を工夫した学校～



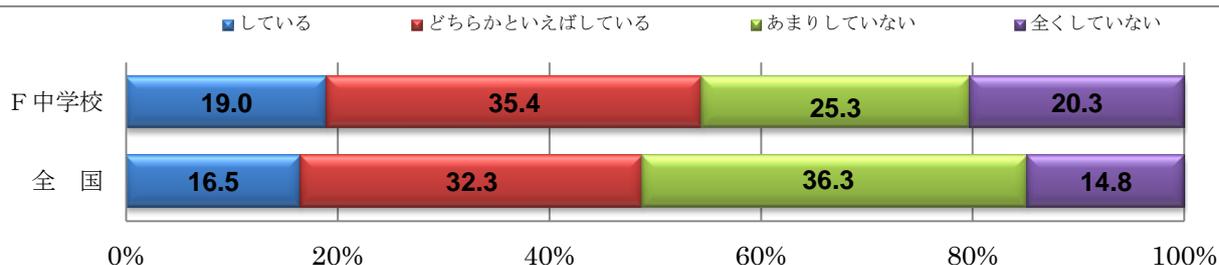
○ 平成 27 年度 生徒質問紙調査結果



平日に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

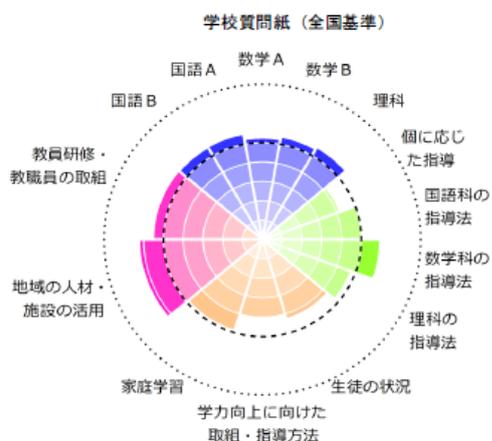


家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



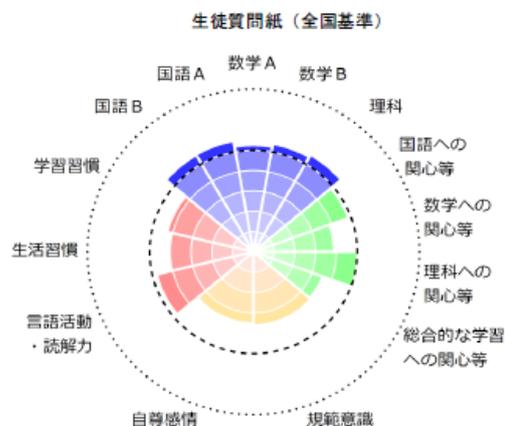
全国学力・学習状況調査結果チャート

【学校運営】



全国学力・学習状況調査結果チャート

【児童生徒】



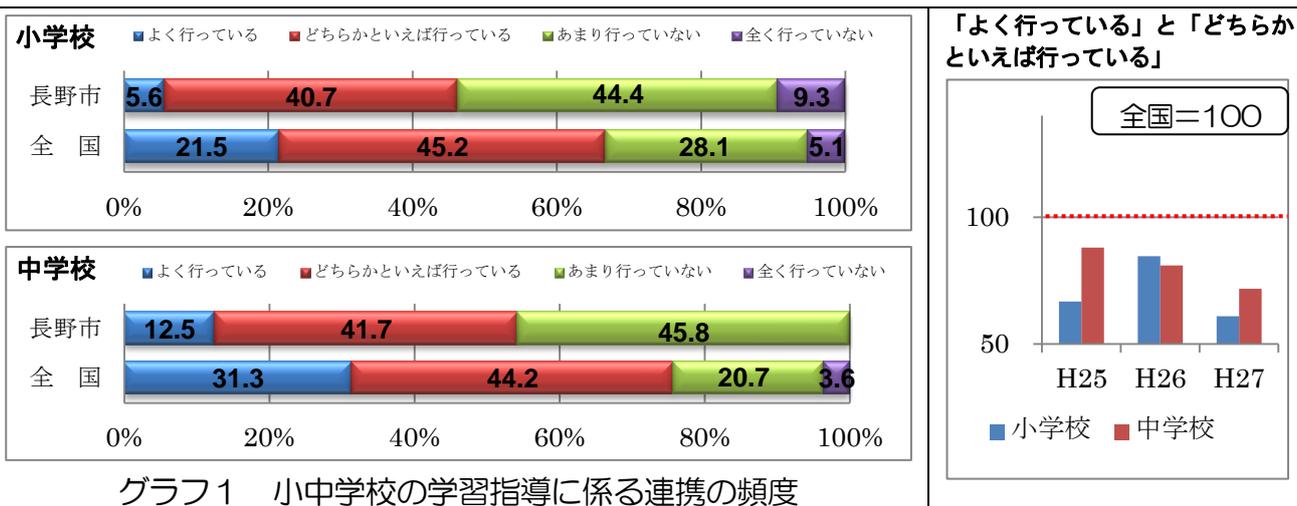
- Q-U を活用した学習集団づくりを進めています。
- 学校質問紙調査では、下記の質問等に肯定的に回答しています。
- ◇ 「朝読書などの一斉読書の時間を設けましたか。」
- ◇ 「総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現にいたる探究の過程を意識した指導をしましたか。」
- ◇ 「保護者に対して生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか。」
- ◇ 「教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加するようにしていますか。」
- ◇ 「学校全体の学力向上や課題について、全教職員の間で共有していますか。」
- ◇ 「学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか。」

Ⅵ しなのきプラン29の重点について

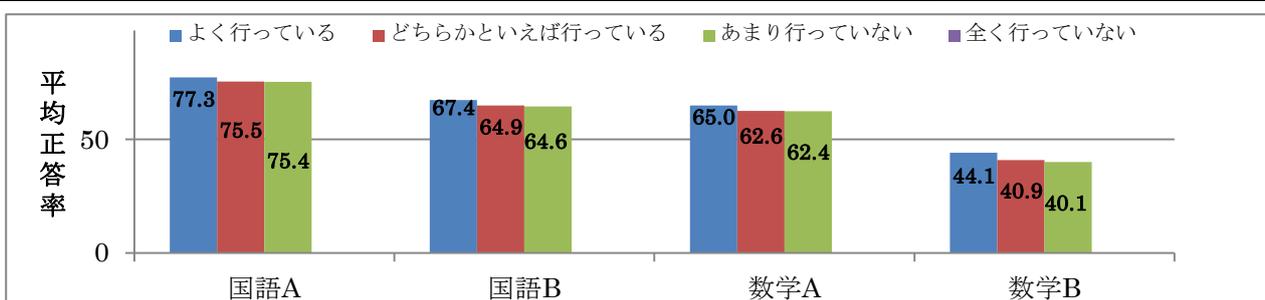
1 児童生徒の学びを繋ぐ「幼保小中高」の円滑な接続

(1) 小中学校の連携について

教科の指導内容や指導方法について近隣の中学校・小学校と連携（教師の合同研修、教師の交流、教育課程の接続など）を行っていますか。（学校質問紙）



グラフ1 小中学校の学習指導に係る連携の頻度



グラフ2 小中学校の学習指導に係る連携の頻度と正答率の関係

長野市の課題は、グラフ1の通り、学習指導に係る小中学校間の連携の頻度が、全国と比べて低いことです。

グラフ2に見られるように、教師の合同研修、教師の交流、教育課程の接続など学習指導に係る連携を行っている学校ほど、児童生徒の平均正答率が高いことがわかります。

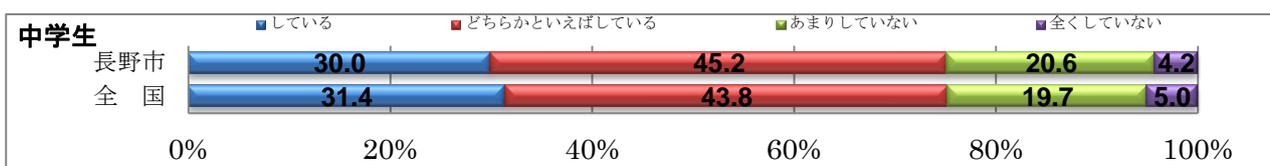
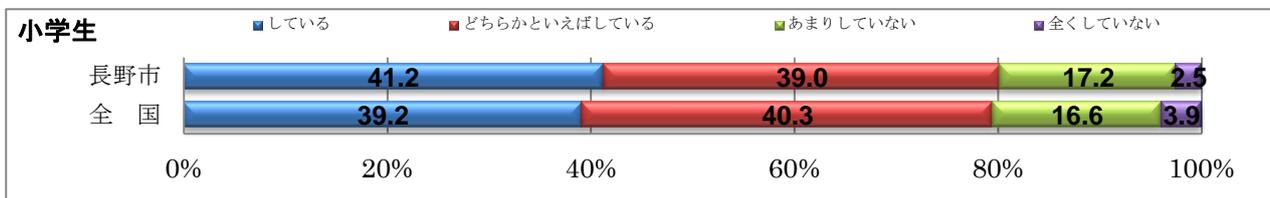
【改善策】

- 1 小中学校の円滑な接続のため、児童生徒の支援情報を共有すること
- 2 幼稚園教諭や保育士にも参加を呼びかけ、授業参観などにより、指導観や目指す児童生徒像を共有するとともに、教育課程や指導計画の接続について意見交換を行うこと
- 3 各中学校区で学校ランドデザインの共有や年間指導計画の調整を図ることにより、地域の児童生徒の課題を考える機会を作っていくこと
- 4 全国学力・学習状況調査やNRT 標準学力調査の結果分析を合同で行うこと

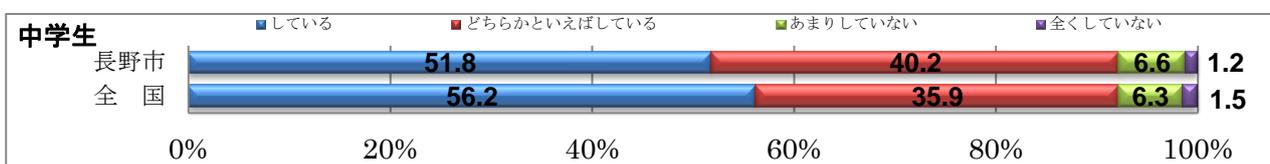
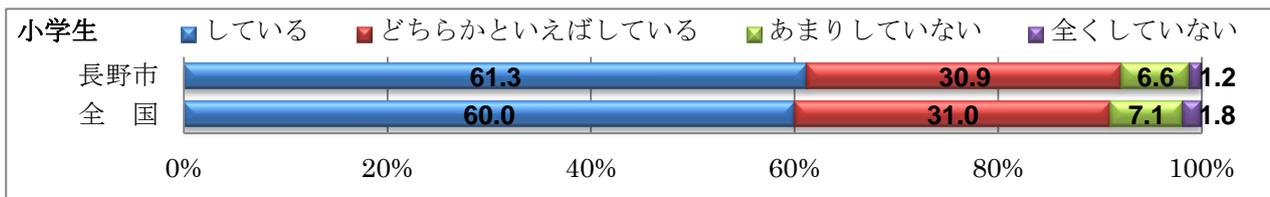
2 児童生徒の基本的な生活習慣の確立と家庭学習の改善

(1) 基本的な生活習慣の確立

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。(児童生徒質問紙)

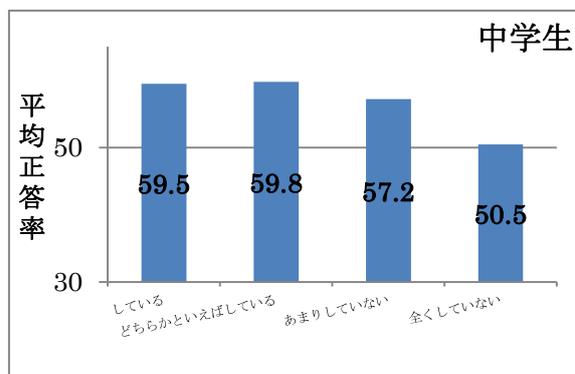
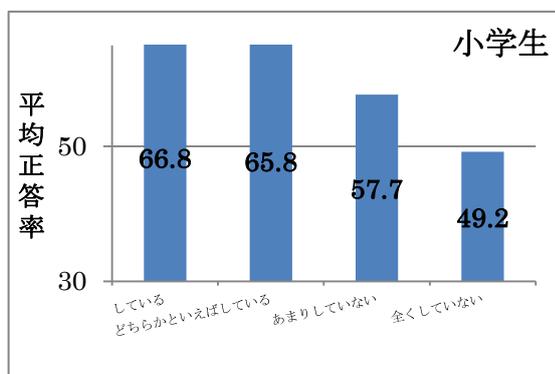


毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。(児童生徒質問紙)

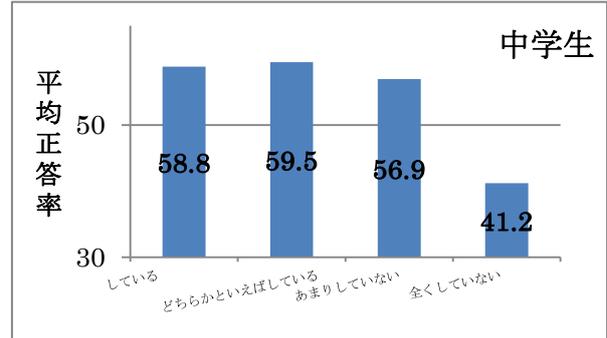
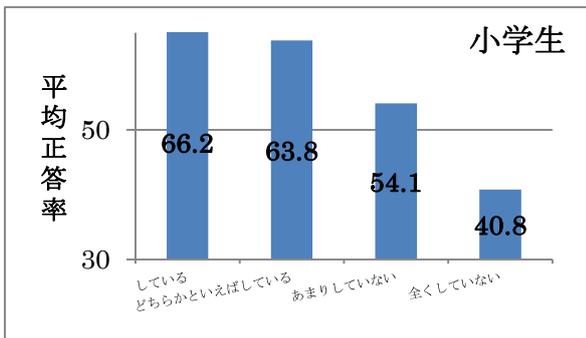


グラフ3 児童生徒の生活リズム

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。(児童生徒質問紙)



毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。(児童生徒質問紙)

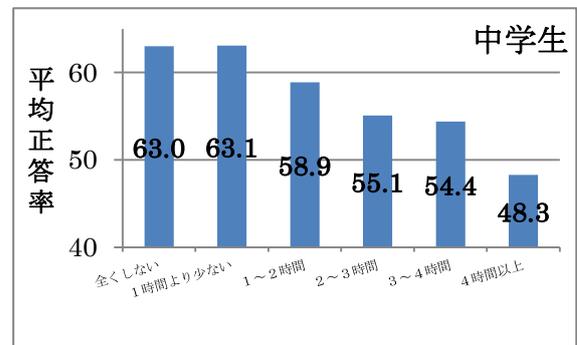
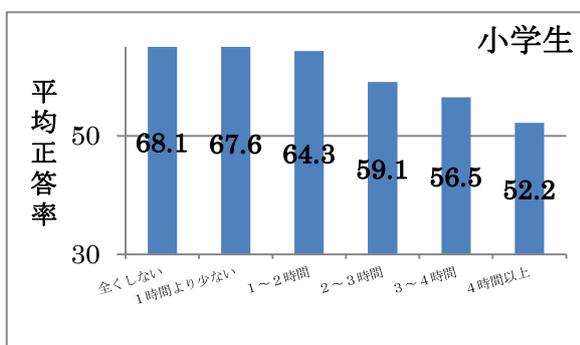


グラフ4 生活リズムと平均正答率の関係

平日、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。(児童生徒質問紙)

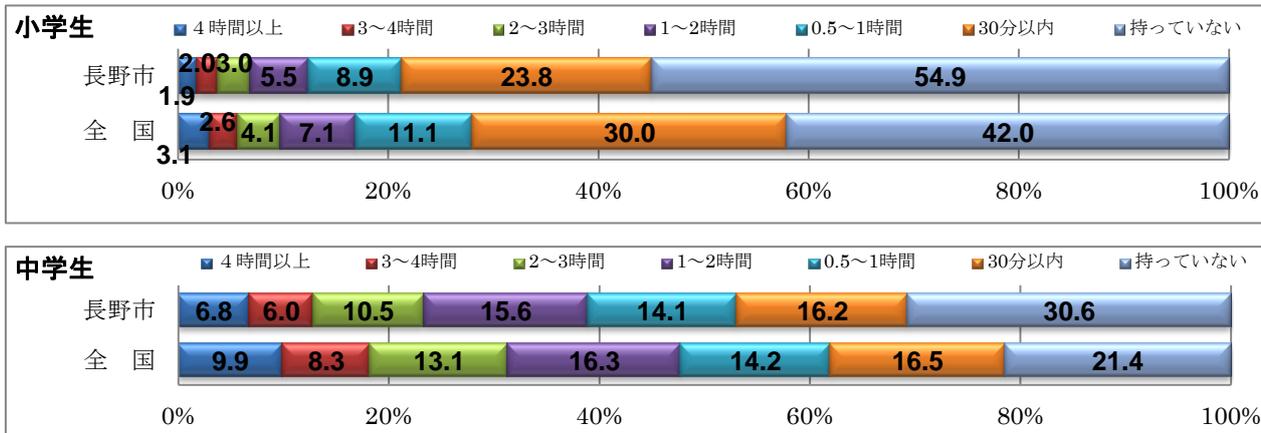


グラフ5 平日1日のテレビゲーム時間

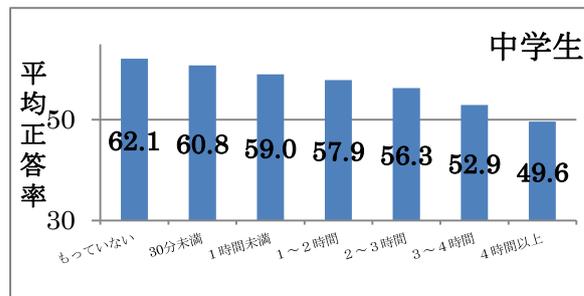
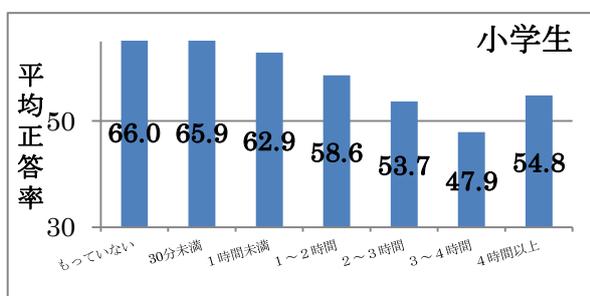


グラフ6 平日1日のテレビゲーム時間と平均正答率の関係

平日どれくらいの時間、携帯電話（スマホ）で通話やメール、インターネットをしますか。
（児童生徒質問紙）

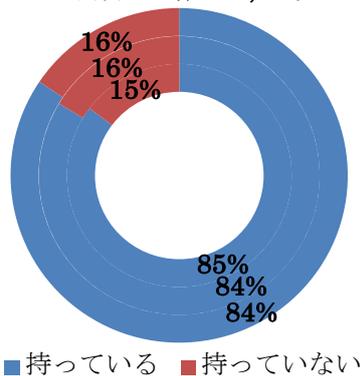


グラフ7 平日1日のインターネット時間



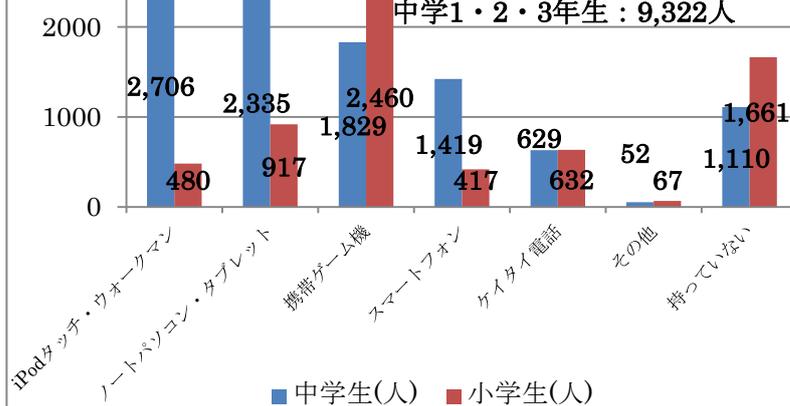
グラフ8 平日1日のインターネット時間と平均正答率の関係

所有率
 外円:小学5・6年生:6,858人
 中円:中学1・2・3年生:9,322人
 内円:全体:16,180人



利用している携帯端末【複数回答】

小学5・6年生:6,858人
 中学1・2・3年生:9,322人



グラフ9 携帯端末の所持率と種類（平成26年度長野市教育委員会実施）

長野市の小中学生の起床時刻、就寝時刻の生活リズムはグラフ 3 の通り、全国と同程度です。グラフ 4 に見られるように、一定の生活リズムができていない児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向がわかります。

グラフ5の通り、平日 1 日に2時間以上テレビゲームをしている児童生徒の割合は、全国と同程度です。グラフ6に見られるように、テレビゲームをする時間が短い児童生徒ほど、平均正答率が高いことがわかります。

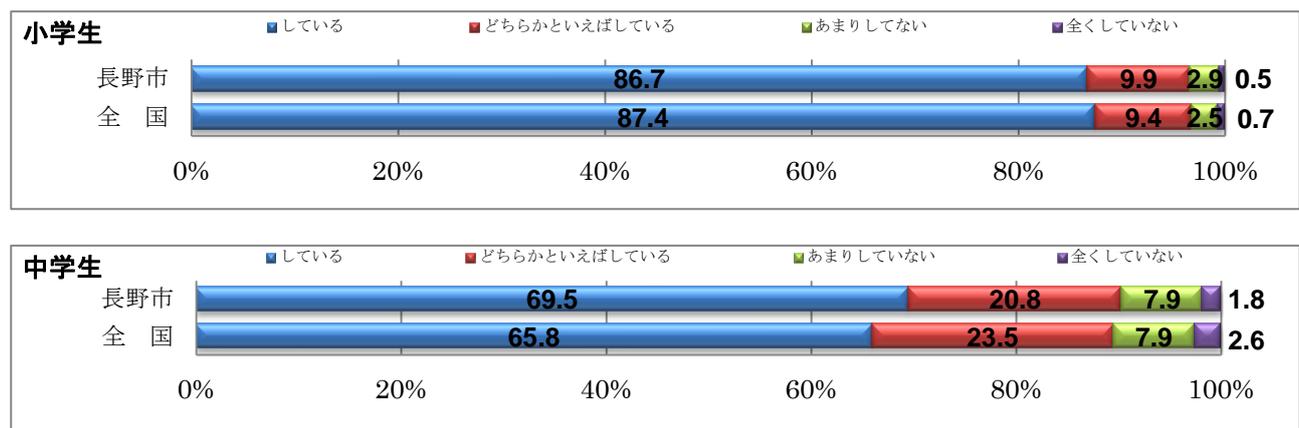
グラフ7の通り、携帯電話（スマホ）を「持っていない」「30分以内」と回答している児童生徒の割合は、全国と比べ高い状況です。また、2時間以上携帯電話（スマホ）をしている児童生徒は、全国に比べ低い状況です。そして、グラフ8に見られるように、インターネットをする時間が短い児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向がわかります。

一方、グラフ9の通り、インターネットにつながる携帯端末について、「持っている」と回答した児童生徒の割合は、85%に上り、様々な種類の機器を持っていることがわかります。

今後もメディアリテラシー、情報モラルについて学習に取り組むことや、家庭でのルールや過ごし方を含め、総合的に子どもたちの生活習慣を見直すことが必要です。

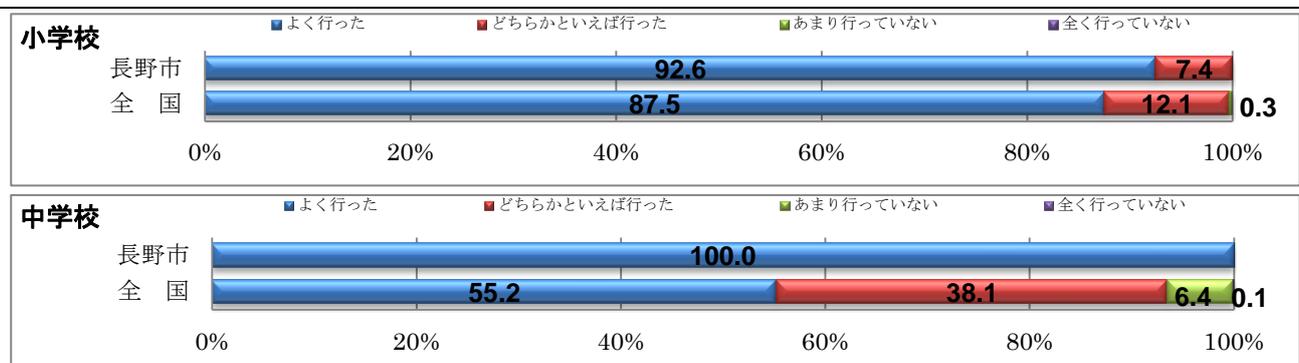
(2) 家庭学習の改善

家で、学校の宿題をしていますか。(児童生徒質問紙)



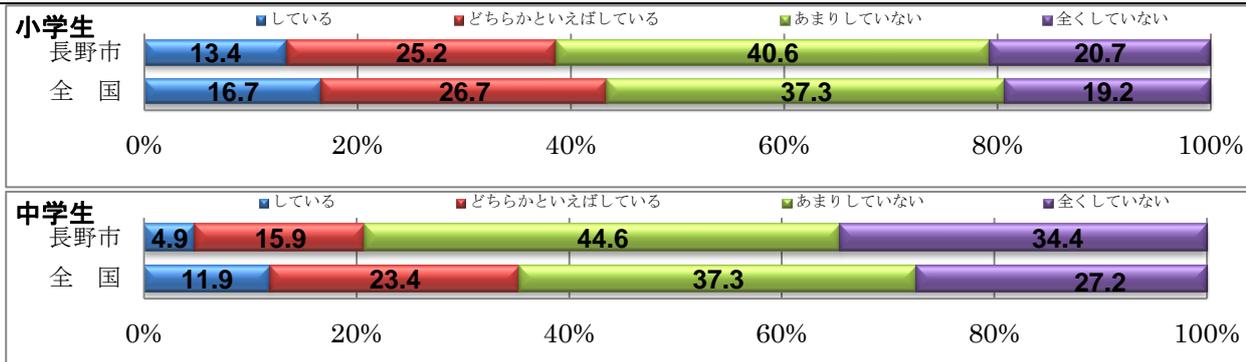
グラフ 10 児童生徒の宿題について

算数・数学の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか。(学校質問紙)

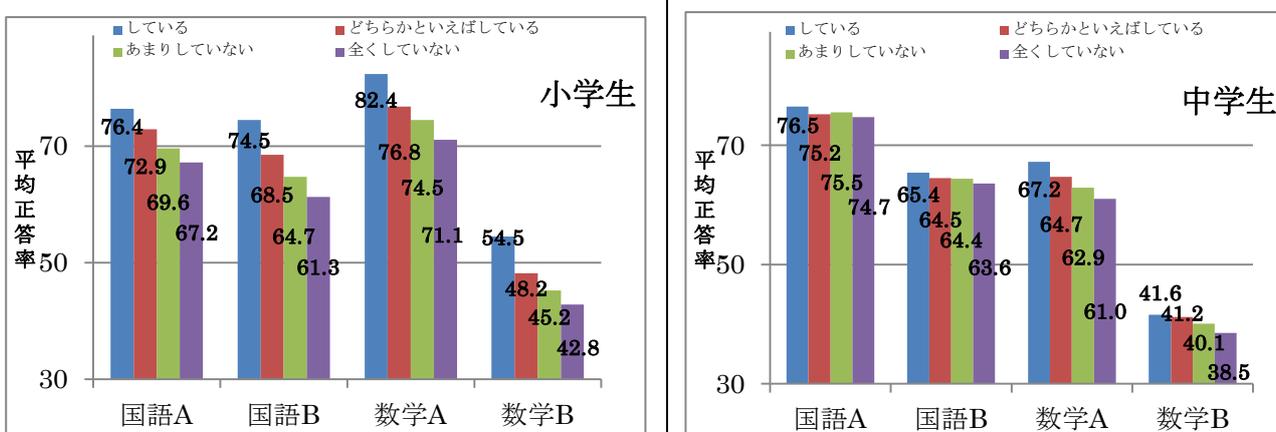


グラフ 11 宿題を出している学校（算数・数学）

家で、学校の授業の予習をしていますか。(児童生徒質問紙)

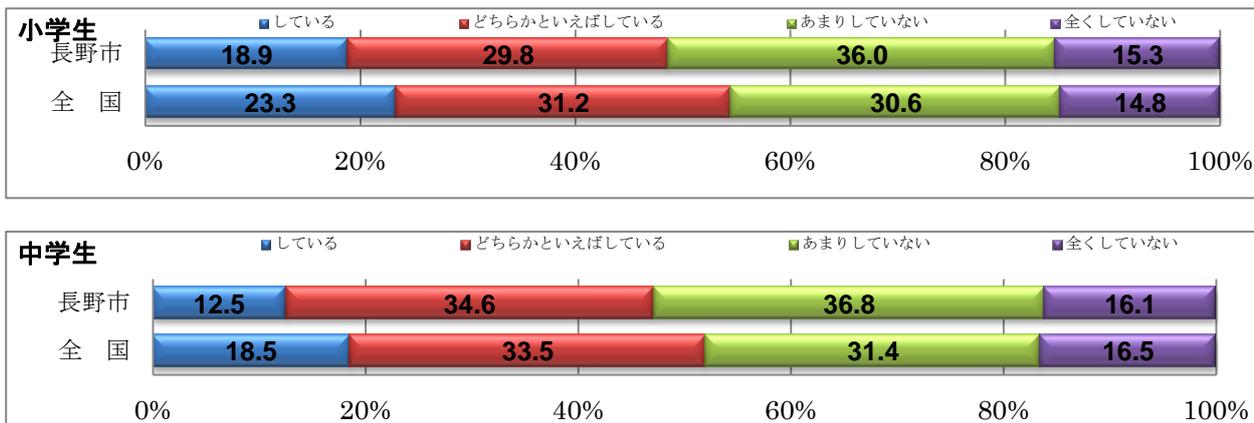


グラフ 12 児童生徒の予習について

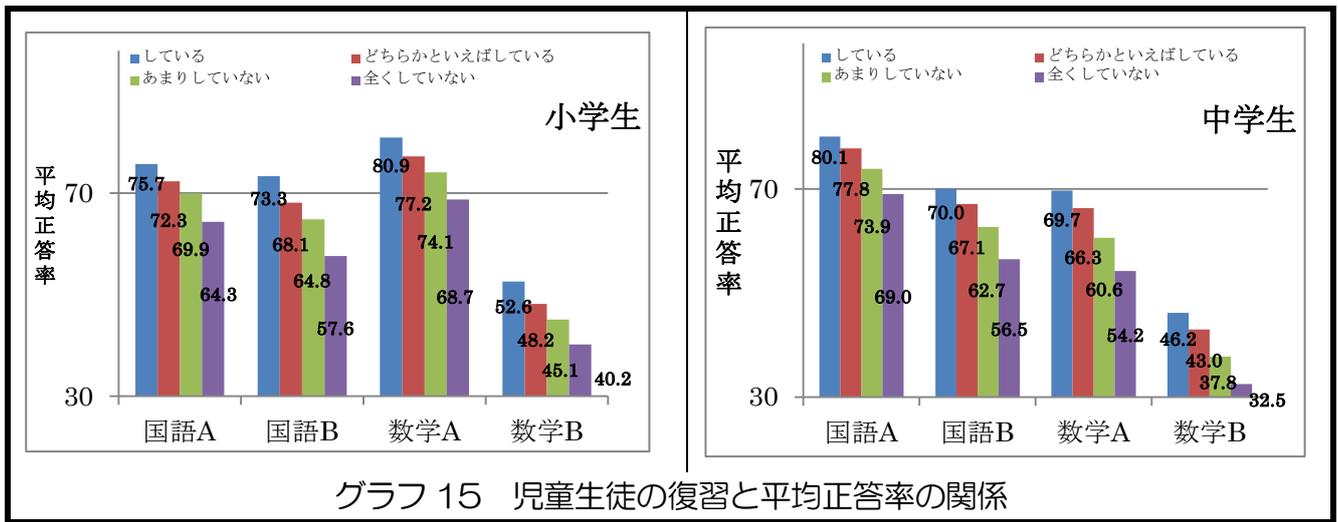


グラフ 13 児童生徒の予習と平均正答率の関係

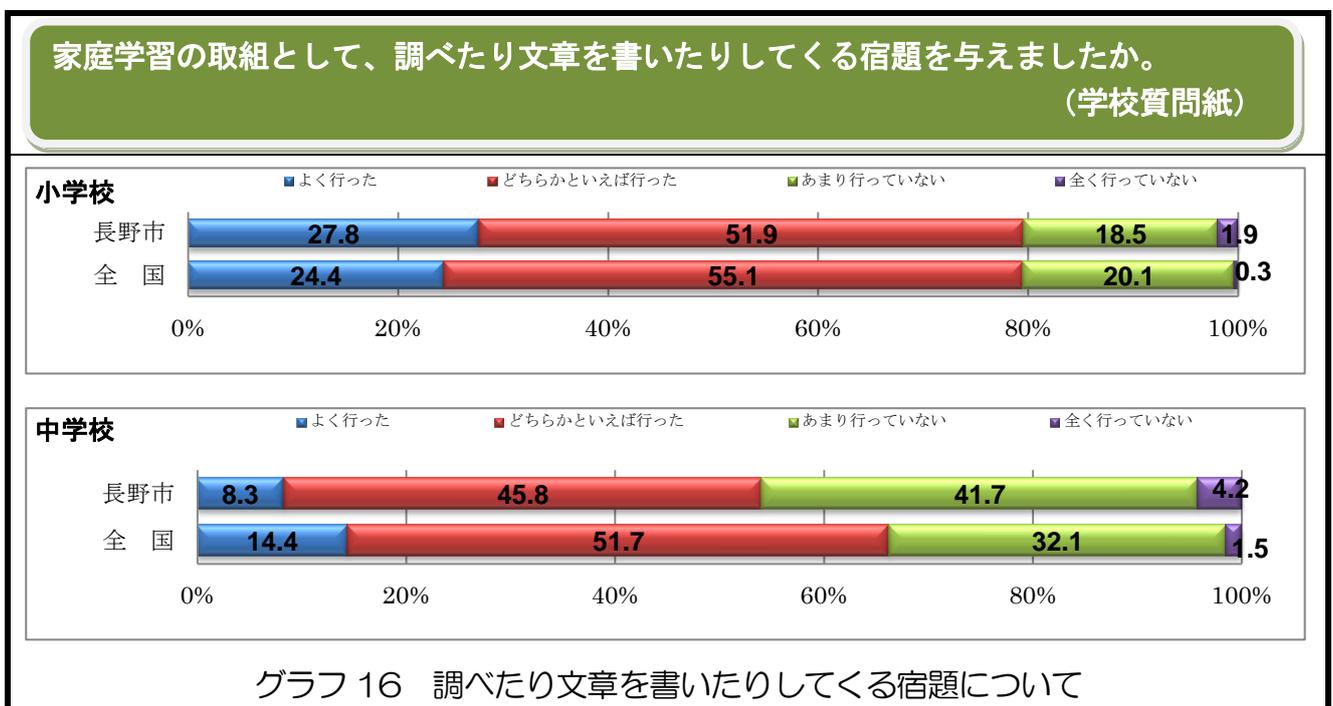
家で、学校の授業の復習をしていますか。(児童生徒質問紙)



グラフ 14 児童生徒の復習について



グラフ 15 児童生徒の復習と平均正答率の関係



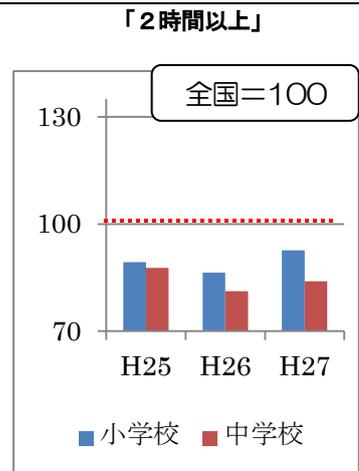
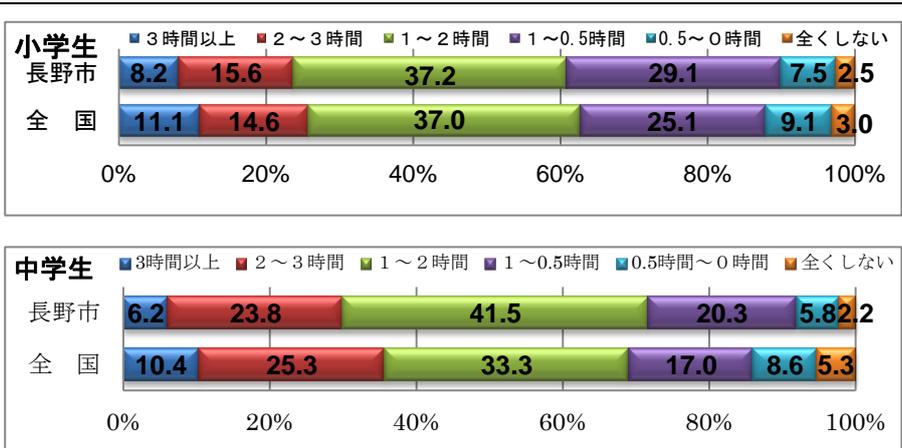
グラフ 16 調べたり文章を書いたりしてくる宿題について

グラフ 10 の通り、長野市の児童生徒は、家で学校の宿題をよくやっています。また、グラフ 11 に見られるように、学校は、算数・数学の宿題をだしていることがわかります。

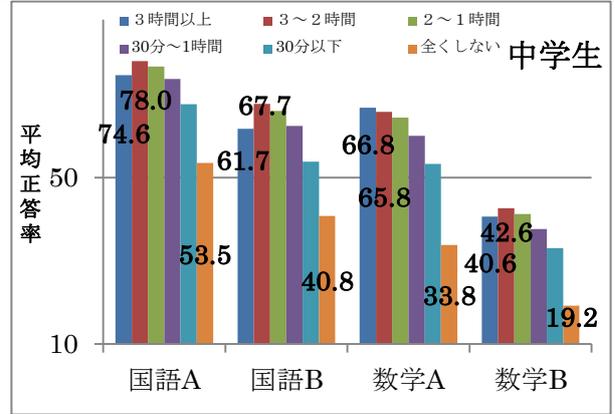
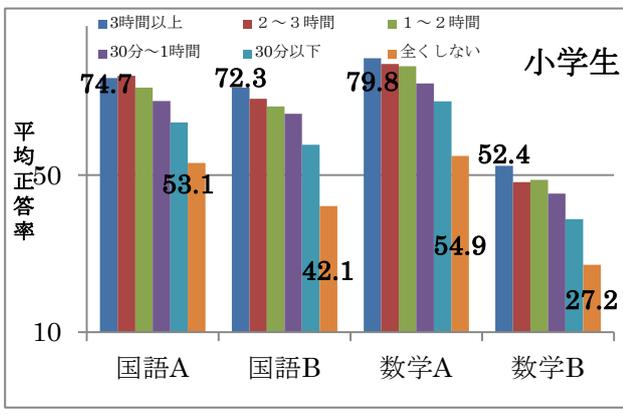
一方、グラフ 12、14 の通り、「予習、復習をしている」と回答している児童生徒は、全国と比べて低い状況です。これらのことから、長野市の児童生徒の毎日の宿題が、機械的な作業になっている可能性もあります。また、グラフ 13、15 に見られるように、「予習、復習をしている」児童生徒ほど、平均正答率が高いことがわかります。

宿題の内容についてはグラフ 16 の通り、調べたり文章を書いたりしてくることを宿題として与えている小学校は全国と同程度ですが、中学校で低い状況です。

平日、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(児童生徒質問紙)

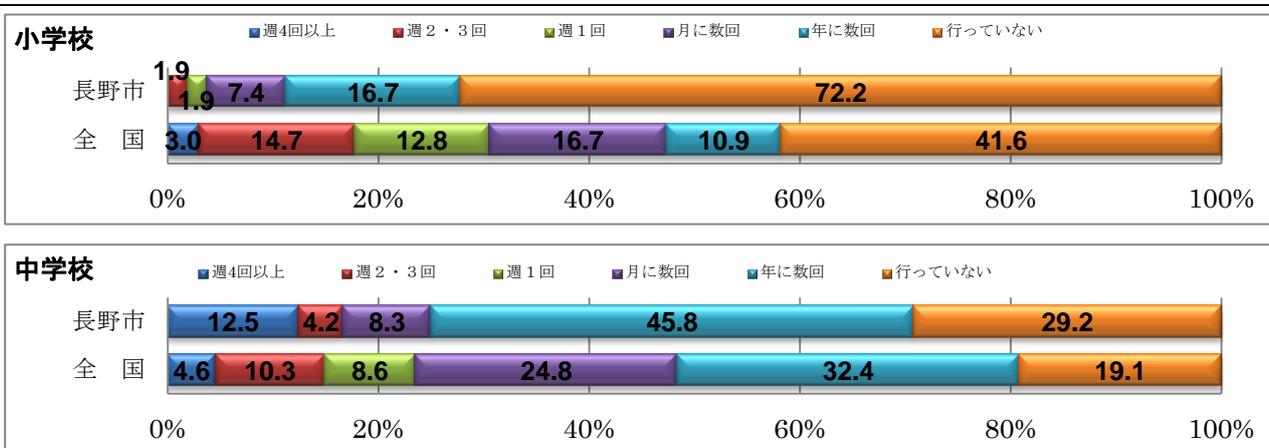


グラフ 17 平日1日の勉強時間



グラフ 18 平日1日の勉強時間と平均正答率の関係

放課後を利用した補足的な学習サポートを実施しましたか。(学校質問紙)



グラフ 19 補足的な学習支援

グラフ17の通り、平日1日に2時間以上勉強している小学生は、全国と同程度です。一方、中学生は、全国よりも低くなっています。また、グラフ18に見られるように、1日の勉強時間が長いほど、平均正答率が高いことがわかります。本調査では、塾などでの学習時間も含まれていることから、宿題を「全くしていない」「30分未満」（小学生10.0%、中学生8.0%）と答えた児童生徒は、ほとんど家庭学習をしていないと考えられます。こうした児童生徒に対して、学習習慣の確立のため、補足的な学習支援をすることが必要であると考えます。

グラフ19の通り、16.7%の中学校で、週2回以上の補足的な学習サポートが行われており、これは、全国よりも高い傾向です。一方、小学校では、72.2%が「補足的な学習サポートを行っていない」という回答でした。

【改善策】

【基本的な生活習慣の確立】

- 1 学級懇談会や地区懇談会において、全国学力・学習状況調査の分析結果を示して議論するなど、学力向上のための取組を家庭・地域とともに推進すること
- 2 PTAとともに「長野市大人と子どもの心得八か条」や「親子の3ステップ」の一層の普及を図り、「家庭における7つの取組」を推進すること
- 3 小学校低学年の段階から、「事例で学ぶ Net モラル」等の教材を活用し、情報モラル教育を進めること
- 4 メディア接触や部活動等を含む中学生の生活リズムについて、生徒会活動等を通して、中学生自らが考え、話し合う場を設定していくこと

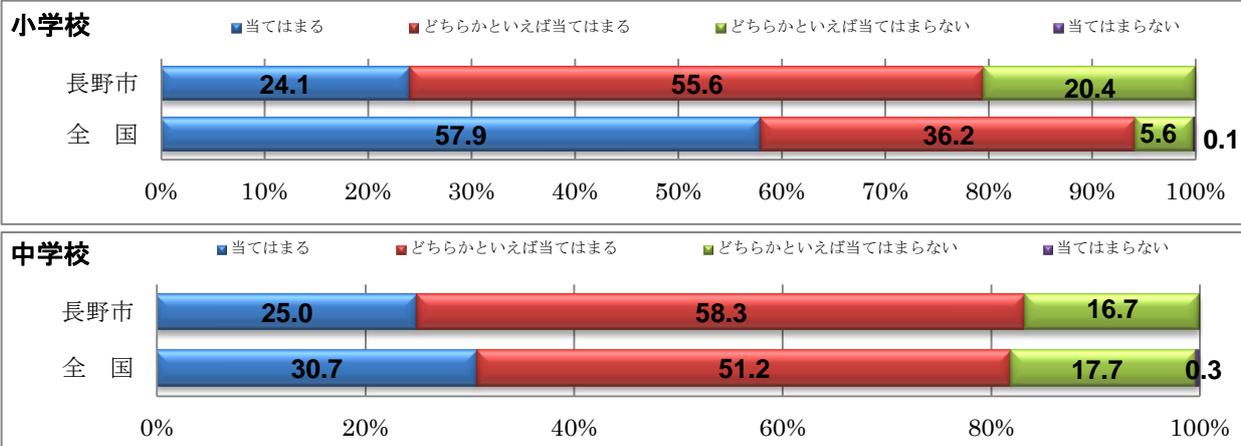
【家庭学習の改善】

- 5 児童生徒が自ら、調べたり文章を書いたりするなど、授業の予習・復習となる家庭学習の質の向上を図ること
- 6 家庭学習の習慣が身につけていない児童生徒に対して、地域ボランティア等を活用し、放課後等における補充学習を充実させること



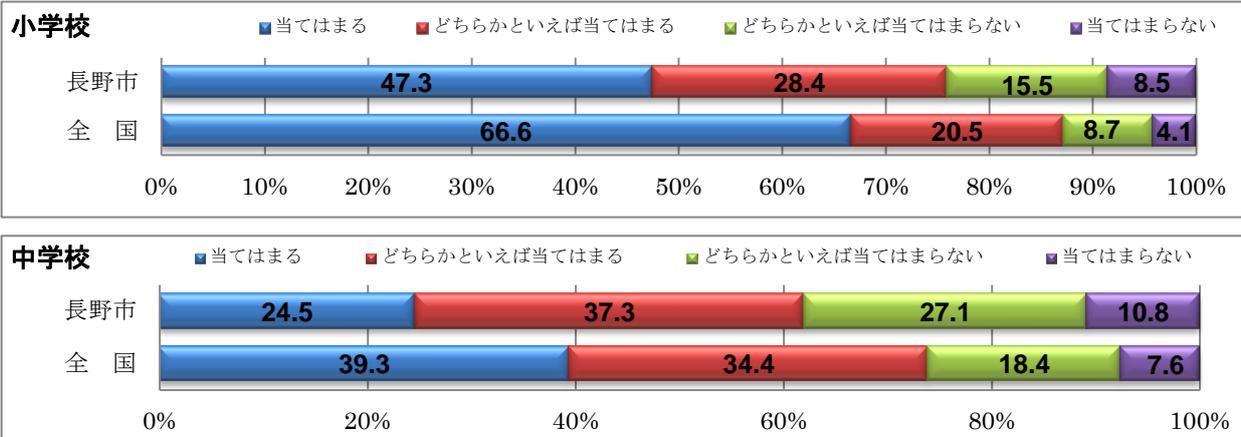
3 教員の授業力向上と日常の授業改善

授業で扱うノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導しましたか。（学校質問紙）

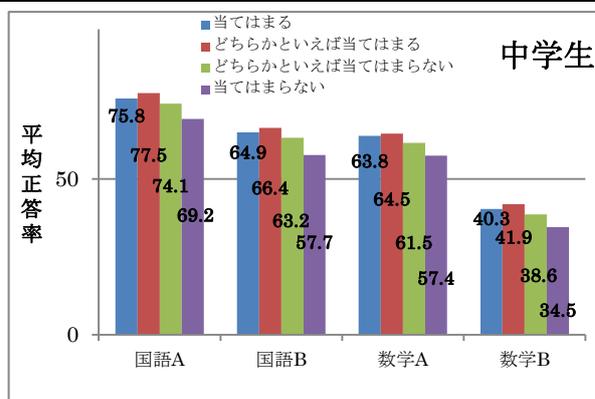
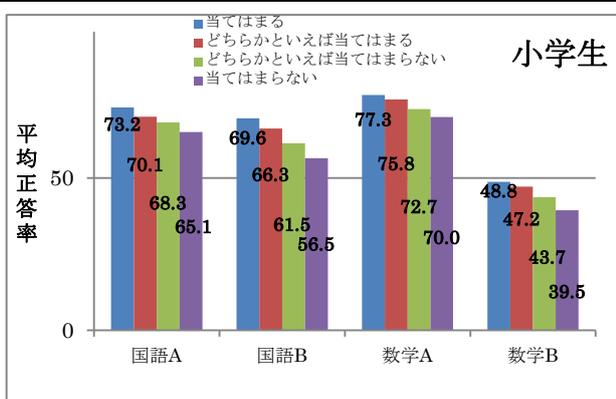


グラフ 20 学習の目標とまとめの記述指導

授業で扱うノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか。（児童生徒質問紙）

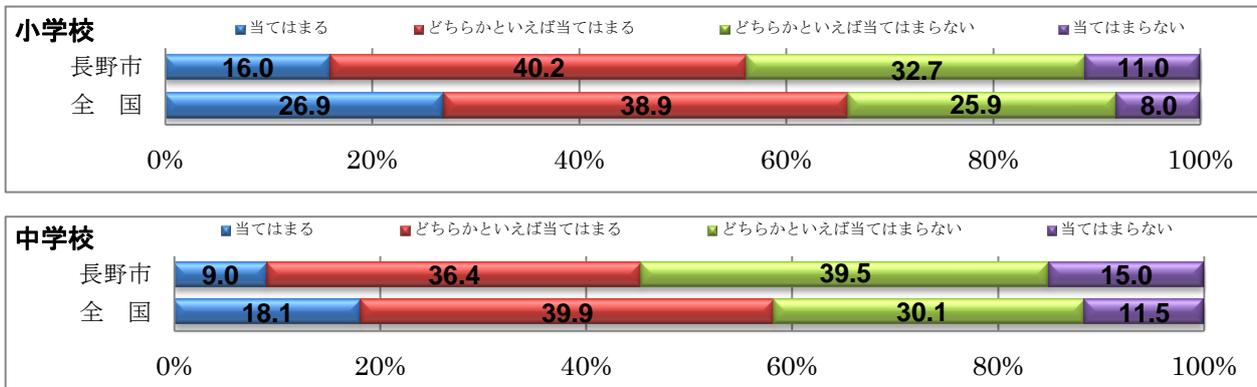


グラフ 21 学習の目標とまとめの記述

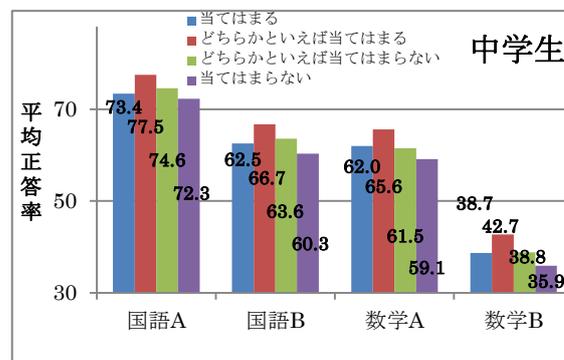
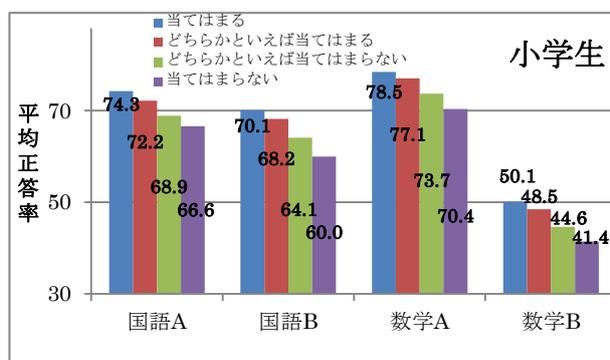


グラフ 22 学習の目標とまとめの記述と平均正答率の関係

「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。(児童生徒質問紙)

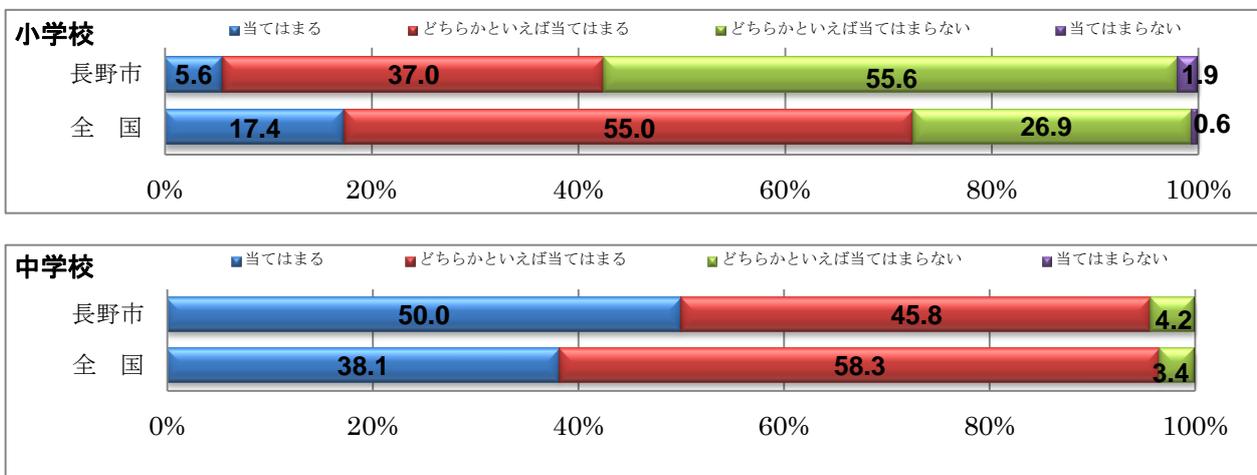


グラフ 23 総合的な学習の時間の取組



グラフ 24 総合的な学習の時間の取組と平均正答率の関係

就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか。(学校質問紙)



グラフ 25 就きたい仕事や夢についての指導

グラフ 20 の通り、授業用ノートに学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導した学校の割合は、全国と比べると小学校で低く、中学校では同程度でした。

一方、グラフ 21 の通り、授業用ノートに学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書く児童生徒の割合が、全国と比べて低い状況です。グラフ 22 に見られるように、毎時間学習のめあてとまとめをきちんと書いている児童生徒ほど、平均正答率が高いことがわかります。

グラフ 23 の通り、総合的な学習の時間において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる児童生徒の割合が、全国と比べて低い状況です。また、グラフ 24 に見られるように、こうした探究的な学習に取り組んでいる児童生徒ほど、平均正答率が高いことがわかります。

「就きたい仕事や夢について考えさせる指導」を行った小学校の割合は、グラフ 26 の通り全国と比べて低い状況です。

【改善策】

【基礎基本の定着（A 学力）】

- 1 1 時間の授業の中で学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを位置付ける。そのため、板書やノート指導を全校で統一して行うこと（「しなのき授業スタンダード」の普及）

【活用力の伸長（B 学力）】

- 2 総合的な学習の時間等において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの探究的な学習活動を体系的に行うこと。こうした活動を通して児童生徒に学び方を身につけさせること

【意欲・態度の育成（C 学力）】

- 3 小学校の段階から児童生徒に、職業や将来の夢について考えさせる学習を位置付け、学習意欲の向上に繋がる小中一貫したキャリア教育の推進を図ること